

【小学校】

学校名	教育目標	本校の教育の特色		
		小・中連携教育	学校・家庭・地域の連携協力	①学力の向上 ②健全育成 ③体力の向上と健康の保持増進
府中第一小	<p>人間尊重の精神とともに、責任と協力を重んじ、適切な判断力と創造性に富んだ情操豊かで自主的健康な児童の育成を行うため、次の通り学校の目標とこれを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。</p> <p>◎すべての教育活動において、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、児童の安全・安心を前提とした教育課程を編成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> よく考える子（問題解決力） なかよくたすけう子（実践力） つよいからだの子（運動能力） 心豊かな子（人間形成能力） 	<p>○小中連携教育に向けて同中学区3校で目指す児童・生徒像を共有し、確かな学びと育ちの実現に向けた指導連携活動を推進していく。昨年度の反省を活用し、新年度の計画を立て実践につなげる。</p> <p>○幼稚園、保育園、中学校との連携を計画的に行い、教育活動の円滑な接続を図る。中学校との指導観の共有を通して、小・中学校の指導の系統性と継続性を踏まえた小中連携教育の充実を図る。当初計画に基づく系統性を活用していく。</p>	<p>○地域と連携した校庭芝生管理や地域防災訓練を通して、学校と地域の協働による、地域と共に児童を育てる体制の充実を図る。また、学校支援ボランティアなどを積極的に活用し、きめ細やかな教育の充実を図る。</p> <p>○東京オリンピックの年に創設された「わかば鼓笛隊」の歴史を学び、演奏活動を通して、伝統を受け継ぎ、豊かな情操と連帯感、地域貢献意識を育む。</p> <p>○スクール・コミュニティ協議会を核に、学校と地域で協働して、教育活動を推進する。</p>	<p>①校内研究では、算数科を教科の軸として、各教科における見方・考え方を動かさせて、主体的に学ぶ資質・能力を育成する研究に取り組む。</p> <p>②年間を通して、学校や地域に対する一体感や誇りをもつような諸活動を計画的に実施する。また、異年齢を集団活動で、互いに認め合いを、よさを伸ばす、共に学び合う場を設定し、自己肯定感や自己有用観が高まるようにする。それらの活動を通して、協働して物事をやり抜く実践力を身に付けるようにする。</p> <p>③体を動かす喜びを実感し、運動の日常化を図るために、校庭芝生のよさを生かした体育授業の改善・充実や、ロング昼休み、兄弟学年、委員会活動等による、外遊びを奨励する活動を行う。</p>
府中第二小	<p>◎よく考え 進んでやる子（自ら学ぶ意欲をもち、自ら課題を見付け考え、正しく判断し実践できる子を育てる。）</p> <p>○心豊かで 思いやりのある子（自らの感じ方、考え方を大切にし、伸ばすとともに、他の良さを認め、仲良く協力できる子を育てる。）</p> <p>○明るく元気で ねばり強い子（健康で明るく、よい生活習慣を身に付け、目標に向かって努力し、最後までやりぬく子を育てる。）</p>	<p>○中学校区内において、若松小学校、浅間中学校との同日、時間差引き渡し訓練を計画し、実際の想定に即した合同訓練を行う。</p> <p>○3学期に予定している中学校区で実施する「世界とつながる英語 Enjoy Week」を通して中学校との実践的な連携教育を推進する。</p>	<p>○読書ボランティアとの連携を深めて読書環境の充実を図り、言語に関する能力を育成する。</p> <p>○人権作文や人権標語づくり、府中市青少年対策委員会浅間地区作文に取り組むことで、思いやりの気持ちや自他を尊重する心を養い、人や自然、地域との関わりについて考える機会とする。</p>	<p>①学校図書館を積極的に活用できる環境を整えることで児童の主体的・意欲的な学習活動、調べ学習、読書活動を充実させる。読書に親しむ児童を育てるために読み聞かせボランティアによる活動や読書旬間を年間指導計画の中に位置づける。</p> <p>②学級活動や児童会活動・クラブ活動・学校行事などの集団活動を通して豊かな人間関係をつくり、よりよい生活と望ましい集団の形成を目指す。</p> <p>③本校の課題である持久力を高める体育指導法の工夫・改善を図り、長縄や持久走等の全校体制での体力向上への取組を通して、児童の体力向上を目指す。また、家庭と連携し、運動習慣の確立を目指す。</p>
府中第二小 仲よし学級	<p>◎よく考え 進んでやる子（自ら学ぶ意欲をもち、自ら課題を見付け考え、正しく判断し実践できる子を育てる。）</p> <p>○心豊かで 思いやりのある子（自らの感じ方、考え方を大切にし、伸ばすとともに、他の良さを認め、仲良く協力できる子を育てる。）</p> <p>○明るく元気で ねばり強い子（健康で明るく、よい生活習慣を身に付け、目標に向かって努力し、最後までやりぬく子を育てる。）</p>	<p>○小中連携の取り組みでは、一中学区の一小、九小、一中の特別支援教室、特別支援学級との継続的な情報共有やカリキュラムの検討を行い、個別の教育支援計画の充実を図る。</p>	<p>○各家庭や関係諸機関との連携を密にし、いじめの対応や健康で安全な生活ができるように努める。</p>	<p>○学習規律の定着を図り、基礎学力を身に付けさせる。毎朝、体力作りの時間を設け、基礎体力を養うとともに、最後まであきらめずに学習や運動に取り組む姿勢を育てる。</p> <p>○児童一人一人の能力・特性に応じた課題を設定し、全ての授業でユニバーサルデザインを意識し、工夫した指導体制の下、個別最適化された効果的な指導を充実させる。</p>
府中第三小	<p>人権を尊重する意識と行動が求められるグローバル化する社会において、「生きる力」を身に付けた人間性豊かな児童を育成するため、次のとおり、学校の教育目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。</p> <p>○すすんで学ぶ子 深く考え、学ぶ喜びを味わうことのできる児童 ：「問題発見・解決力」</p> <p>○思いやりのある子 相手のことを考え、心を通わせて支え合うことのできる児童 ：「人間関係形成・調整力」</p> <p>○ねばり強い子 最後までやり通し、責任を果たすことのできる児童 ：「物事に粘り強く取り組む態度」</p> <p>○健康な子 運動に親しみ、健やかな心を身に付けた児童 ：「豊かなスポーツライフを実現する力」</p>	<p>・年3回の府中第四中学校との小中連携、本宿小学校との小中連携を意識しながら、教育活動や研究活動を意図的・計画的に協働して行う。またその成果を検証しながら充実させていく。</p> <p>・中学校との連携を密にして、学校生活への適応を図り、進路について見つめる力を養う。</p> <p>・各教科・領域の中で適切にキャリア教育を取り入れ、自分の将来に夢と希望と目標をもち、あきらめず、主体的に生きる意欲的な児童を育てる。</p>	<p>・日本の伝統や文化に関する学習を通して、豊かな感性を育み、日本人としてのアイデンティティを確立する。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、いじめや不登校、アレルギー、不審者等に関する対応を地域や保護者と行動連携し、児童が安心して過ごすことができ、子供が明日学校に行くことが楽しみになる学校づくりを行う。</p> <p>・地域の方をゲストティーチャーに招聘して体験による学びを重視する。</p>	<p>①ユニバーサルデザインの視点から板書に毎時間必ず本時のねらいを明記する。また、授業の中で「振り返り」の活動を設定し、児童の自己調整力を育成する。</p> <p>・各教科の見方・考え方を動かして通して、育成すべき資質・能力を育む授業を推進する。</p> <p>・ICTを活用しプログラミング学習や個別最適な学びを充実させた授業を実施して、児童が主体的に学ぶことができるようにし、タブレット端末を用いた相互交流により、対話的で協働的な学習を展開するとともに、調べ学習による情報活用能力を育成する。</p> <p>②規範意識や自己肯定感の向上を図るために、児童の発達段階に応じた指導に努める。特に、自分の大切さと他の人の大切さを認められるようになることを教職員は強く意識して、指導にあたる。</p> <p>・年3回のふれあい月間に加え、安全指導・避難訓練等を活用し、保護者・地域・青少年対策委員会・関係機関と連携を図りながら、生活安全や交通安全、災害安全など安全教育の充実を図り安全で安心な学校環境を整える。</p> <p>・基本的な生活習慣の定着を図るために、家庭への正しい生活習慣の啓発を図るとともに、家庭との連携を密に図れるよう保健だよりや給食だより等を活用する。</p> <p>③児童の運動能力の向上や生涯にわたりスポーツに親しむ精神を育むために投力・握力の向上に努め、日常化を図る。</p> <p>・体力・運動能力調査の結果を分析し、コオーティネーショントレーニングを生かした授業を実践し体力の向上を図る。</p>

学校名	教育目標	本校の教育の特色		
		小・中連携教育	学校・家庭・地域の連携協力	①学力の向上 ②健全育成 ③体力の向上と健康の保持増進
府中第四小	<p>人間尊重の精神を基調に、心身ともに健康で人間性に富み、自主性と実践力のある「みずからきりひらくたまっ子」を育成する。</p> <p>○たくましい子 (心と身体、健康づくりに粘り強く取り組み、最後までやりとげる子供:「実践力」)</p> <p>◎まっすぐな子 (自ら学び、自ら考え、正しく判断し、表現することができる子供:「問題解決力」)</p> <p>○こころあたたかい子 (互いに尊重し合い、思いやりの心と協力する心をもって、よりよい集団を築こうとする子供:「人間関係形成力」)</p>	<p>○六中学区の小柳小学校・南白糸台小学校と共に目指す児童・生徒像の共有化を図り、9年間の「学び」と「育ち」の系統性、継続性のある教育活動を推進し、「学び」と「育ち」の視点から、行動目標を設定して取り組む。</p> <p>ア「学び」の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「毎日の宿題」と「学習マラソン」(6年生)を推進し、学習習慣の定着を図る。 ・「キャリア・パスポート」や「カリキュラム接続シート」を活用し、各教科の教科連携を図る。 ・T Tによる授業の実施と教科指導連携を行い、9年間を見通したカリキュラム編成を目指す。 <p>イ「育ち」の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で行うあいさつ運動への中学生の参加とあいさつの励行を行い、礼儀正しい態度と温かい人間関係を育む。 ・地域清掃ボランティアへの小中学生の参加を促し、地域社会に貢献できる児童生徒を育てる。 ・中学校の部活動体験への参加や、六中学区の子童会と生徒会との交流等を通して中学校生活への意欲と関心を高める。 	<p>○保護者、地域、スクール・コミュニティ協議会による学校関係者評価や自己評価等により効果的な学校評価を行い、教育活動や学校運営の改善に生かすとともに、学校便りや学校配信メール、ホームページ等で保護者や地域へ情報提供を行い、開かれた学校づくりを進める。</p> <p>○地域や保護者と連携した地域安全マップ作りを実施し、児童の防犯・防災の意識を高めるとともに、学校と地域・保護者の連携を深め、スクール・コミュニティとして地域と学校の双方向と活性化を図る。</p> <p>○地域や保護者と連携し、野菜やイネの栽培等の体験活動や、食育を中心とした健康教育を推進し、教科等との関連の中で創意工夫を生かした教育活動を充実させる。</p>	<p>①授業におけるねらいの焦点化及び新しい生活様式に即した学習活動の精選により、効率的な学習を実現するとともに、これまでの教育実践とICTのベストミックスを図ることによる「主体的・対話的で深い学び」を中心とした授業の実現を図る。</p> <p>①学力調査を基に自校の「強み」と「弱み」を分析し年間指導計画や授業改善推進プランを活用し、問題解決的・体験的な学習活動、言語活動を充実させ、基礎・基本の定着を図るとともに知識・技能の活用能力の向上を図る。</p> <p>①東京ベーシック・ドリル、府中市 e ライブラリアドバンス等の学習コンテンツの活用やモジュールの時間や家庭学習と連携した計画的な反復練習の充実を図り、基礎学力を定着させる。</p> <p>②四小の学校文化を醸成し、全校児童の憧れと誇りとなる「府中四小ハーモニーブリーズ・ジャズオーケストラ」の活動を推進する。</p> <p>②家庭や地域、関係諸機関と連携したセーフティ教室を実施する。避難訓練や地域・保護者と連携した防災訓練を通して、自分の命は自分で守る意識を徹底させ、自然災害や犯罪に直面したときに、適切に対応できる児童を育てる。また「防災ノート～災害と安全～」及び「東京マイ・タイムライン」、「府中市防災ハンドブック」等を活用し、災害発生時に適切な行動ができる能力を養う。</p> <p>③四小体操、ポール体操は本校の伝統ある体育的活動と捉えて、体育学習に位置付けて取り組む。また、体力診断テストの結果を活用し、学校、学年、学級で運動の日常化に取り組み、家庭と連携して体力・運動能力の向上を図る。</p>
府中第四小 仲よし学級	<p>人間尊重の精神を基調に、心身ともに健康で人間性に富み、自主性と実践力のある「みずからきりひらくたまっ子」を育成する。</p> <p>○たくましい子 (心と身体、健康づくりに粘り強く取り組み、最後までやりとげる子供:「実践力」)</p> <p>◎まっすぐな子 (自ら学び、自ら考え、正しく判断し、表現することができる子供:「問題解決力」)</p> <p>○こころあたたかい子 (互いに尊重し合い、思いやりの心と協力する心をもって、よりよい集団を築こうとする子供:「人間関係形成力」)</p>	<p>○府中第二中学校・小柳小学校の特別支援学級と共に、9年間の「学び」と「育ち」の系統性、継続性のある教育活動を推進する。</p>	<p>○家庭と連携をし、自己の健康や安全について共通理解を図り、協力して生活指導の充実に取り組む。</p> <p>○児童の実態に応じて適切な進路選択ができるよう、家庭・関係諸機関との連携を図る。</p> <p>○児童一人一人の障害やその実態について正しい認識と理解を全教職員が共有し、家庭とも連携して指導を図る。</p>	<p>①学級集団を基本としながら、児童の実態と学習内容により全体・学年・課題別等グループを編成し、複数担任による個に応じた効果的な指導を行う。</p> <p>②家庭や地域、関係諸機関と連携したセーフティ教室を実施する。避難訓練や地域・保護者と連携した防災訓練を通して、自分の命は自分で守る意識を徹底させ、自然災害や犯罪に直面したときに、適切に対応できる児童を育てる。</p> <p>③「新しい生活様式」を基盤として、健康・安全教育の充実を目指し、児童の生命・安全に対する意識を高める。四小体操・ポール体操は本校の伝統ある体育的活動として取り組み、マラソン大会に向けて継続的に持久走に取り組むことで体力向上を図る。</p>
府中第五小	<p>平和を愛し、積極的に文化的な社会・国家の進展に寄与できる調和のとれた人格の育成を目指して、次の目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康で明るく (明るく健全な心と体をつくる。:「実践力」) ・だれとも仲よく (思いやりをもってすすんで協力する。:「人間関係形成力」) ・自分から努力する (目標に向かって全力で実行する。:「問題解決力」) 	<p>○幼保小中間の円滑な接続を推進し、学校生活へのよりよい適応を図る。府中第十中学校と義務教育9年間で育成すべき力を検討し共有することで、確かな「学び」と「育ち」を実現する。</p>	<p>○家庭と連携を図りながら望ましい生活習慣を確立し健全な生活を実践する力を育むとともに、体を動かすことの楽しさを実感させ運動の日常化を図り、生涯にわたる「スポーツライフ」の基礎をつくる。</p> <p>○地域運営学校として学校経営計画に基づく教育内容・実践を積極的に公開するとともに、学校評価から経営の改善を図る。また、学校運営協議会を軸に、創立150周年の教育活動を地域と共に推進し、児童の地域への愛着や地域の担い手としての自覚を育む。</p>	<p>①小中連携の視点のもと学習規律の徹底を図り、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る。また、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力等を深め、思考・判断・表現を通して知識、技能、理解の質の向上を図って、探究する力を育成する。</p> <p>②通常の学級と特別支援学級・特別支援学校との教科交流及び共同学習や理解授業、クラブ・委員会活動、たてわり(異年齢集団)活動、挨拶運動等を通して、人と関わる力を育成する。</p> <p>③体力の向上を図るために、新体力テストの結果等を活用した授業の充実を図るとともに、ロング休み・なわとび旬間・持久走旬間・「ふちゅうロープチャレンジ」等の実施を継続的に取り入れる。また、養護教諭・給食センターと連携し、食育及び保健の指導を計画的に行い、生活習慣の意識を高めるとともに、学校保健委員会等を通して、家庭と連携して運動の日常化を図る。</p>
府中第五小 仲よし学級	<p>学校の教育目標を受けて、知的障害のある児童に対し一人一人の自立を目指して、次の目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気で(自分の健康や安全に気を付けて生活する。:「実践力」) ・仲よく(互いに仲よく助け合う。:「人間関係形成力」) ・最後までがんばる(自分のことは自分でする。:「問題解決力」) 	<p>○府中第四中学校特別支援学級と連携し、個々の障害の特性や心身の発達、学力などの情報を交換し、義務教育の9年間を通じて、児童の社会的・職業的自立に向けた確かな「学び」と「育ち」を実現する。</p>	<p>○地域運営学校として、教育課程を介して教育目標を学校と地域が共有していくために、学校経営計画に基づく教育内容・実践をより積極的に公開するとともに、学校評価から経営の改善を図る。また、学校運営協議会を軸に、創立150周年の教育活動を地域と共に推進し、児童の地域への愛着や地域の担い手としての自覚を育む。</p>	<p>①各学年を基礎集団としながら、児童の実態と学習内容等により、学級全体・複数学年・課題別グループ等、集団の編成を工夫し効果的な指導を行う。</p> <p>②セーフティ教室や避難訓練・安全指導・地域総合防災訓練等を計画的に実施する。危険を予測し犯罪から身を守る生活安全教育や交通事故の被害者にも加害者にもならないための交通安全教育、災害から自らの命を守る災害安全教育の充実を図る。児童の安全に対する意識を育てる。また、「SOSの出し方に関する教育」「生命(いのち)の安全教育」を合わせて行うようにする</p> <p>③学校生活全体を通して、自己コントロールの力や身辺処理の力を高めるとともに、健全な生活を送るための基礎的能力を育てる。</p>

学校名	教育目標	本校の教育の特色		
		小・中連携教育	学校・家庭・地域の連携協力	①学力の向上 ②健全育成 ③体力の向上と健康の保持増進
府中第六小	<p>これからの新しい時代、「Society5.0」に向けて、人と社会、自然環境等と協調しながら、たくましく、自律して生きていく児童を育成するため、次のとおり、学校の目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。</p> <p>○自分で学べる子(生涯にわたって学び続けることができる子)：課題設定・課題対応力</p> <p>○仲よく助け合う子(誰とでも仲良く協力し、親切にできる子)：人間関係形成力</p> <p>◎たくましい子(課題や困難に立ち向かう強い心と体をもつ子)：やり抜く力</p>	<p>○府中第五中学校区における目指す子供像と育成すべき力を共有し、小・中学校の9年間の系統性と継続性をもたせて「学び」と「育ち」の充実を図る。を活用し、就学前段階、進級・進学時の情報交換を丁寧に行うとともに、年3回の小中連携の日を含め、定期的な情報交換の場を設定し、授業規律等の学習面の指導やあいさつ運動等の生活指導の共有化を図る。</p>	<p>○「共育」の理念の下、地域の伝統文化を理解すると共に地域との積極的な交流を図り、地域人材や外部人材を適宜活用しながら、「府中」を愛する児童を地域と学校と家庭で育成する。教育活動全体を通じて体験学習の機会の充実を図るため、地域人材等のゲストティーチャーの活用を増やし、実感の伴った理解につながるよう計画をしていく。</p>	<p>①児童自身が自らの学習を振り返り、次の学習へと向かう力を育成するため、問題解決型学習及び自主的・自発的な学びへの取組を推し進めながら、学習習慣を定着させるための取組を、家庭との連携を密にし、タブレット端末を活用しながら、全校一致の指導体制で実施する。</p> <p>②「六小みんなのきまり」を活用して、指導内容の共通理解を図り、学習規律・基本的生活習慣を徹底する。語先後礼による挨拶の習慣をつけ、全校で年間を通じて、すすんで気持ちの良い挨拶ができる児童の育成を図る。</p> <p>③体力調査の結果を活用し、児童が苦手とする動きの改善を重点化し、体づくり運動や体育授業の改善に取り組み、体力や運動能力の向上を図る。</p>
府中第七小	<p>人間性豊かな心情をもち、平和な国家の形成者として、21世紀の国際社会に主体的に生きる意欲をもち、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指す。次の目標を設定し、家庭・地域との緊密な連携の下、教育を推進する。</p> <p>○つよく (丈夫な体と強い意志をもち、責任をもって最後までやり遂げる力：「行動力」)</p> <p>○ただしく (基礎学力を身に付け、真理と正義を愛し、主体的に考判断し、すすんで創造的に行動する力：「問題解決力」)</p> <p>○あたたかく (自他の人格を尊重し、豊かな心情をもって共に生きることのできる力：「人間関係形成力」)</p>	<p>○年間3回の小中連携の日を中心とし、主体的・対話的で深い学びを実現するための計画的な指導を目指し、府中第七中学校区の3校で連携し、共通性のある学習規律等による指導を徹底する。</p> <p>○府中第七中学校区での連携を生かした「元気アップチャレンジ週間」「ノーマディアデー」等、健康づくりの取組を継続・充実を図る。また、府中第七中学校区での共通の取組である中学生との挨拶運動を実施する等、小中連携教育の具体的な取組を推進していく。</p>	<p>○『地域とともにある学校づくり』のために、地域コーディネーターを中心としたスクール・コミュニティ協議会の一層の充実を図る。特に地域防災の観点から「七小防災会議」を中心として、学校と地域が協働的に関わることでできる関係作りを推進する。</p> <p>○地域のスポーツ行事や音楽会行事への取組を通して個性の伸長を図り、自主的・実践的な態度を育てるとともに、積極的に参加することにより、地域との交流を図る。</p>	<p>①指導計画及び「七小授業スタンダード」を基に、教材研究に励み「分かる・できる」授業を実施する。全校児童を対象にした「詩の暗唱」の取組を継続し、児童の言語環境の充実を図る。年間3回の読書指導週間を実施し、年間指導計画に基づき、学校司書支援員と連携しながら読書や読み聞かせ、調べ学習の充実を図り、読書習慣が確立できるようにする。</p> <p>②「あいさつ運動」「呼名・言葉遣い」「たてわり班活動」等を中心に、「思いやりの心」を育む学年・学級経営の充実を図る。また、児童の自尊感情や自己肯定感、自己有用感を育むために、当番活動の充実や「ありがとうの木」等の取組により一人一人のよさを見付け、褒め・励ます。</p> <p>③全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、本校の実態に即した「パワフル7(たてわり体力づくり)」や「運動の取組(マラソン、長なわ跳び、短なわ跳び)」、望ましい生活習慣の定着に向けた「元気アップチャレンジ週間」「ノーマディアデー」等、小・中学校で連携する継続的・系統的な取組等により健康な体づくりを推進する。</p>
府中第八小	<p>人間尊重の精神を基調とし、平和を愛し、広く国際社会において信頼と尊敬を得られる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指す。その実現のために育てたい児童像を次のように掲げる。</p> <p>○学び続ける子(課題意識をもち、考え、伝え合い、学び合う子：「問題解決力」)</p> <p>◎仲良く助け合う子(かわりを大切に、相手を思いやる子：「人間関係形成力」)</p> <p>○たくましい子(体力を養い、健康的な生活習慣を身に付け維持する子：「健康管理の実践力」)</p>	<p>○義務教育9年間を見通した学習指導と生活指導の系統性や継続性を踏まえたカリキュラムの作成・実施に取り組み、八小・九中の指導連携の充実を図る。小中連携教育として「あいさつ・あんぜん・あとしまつ」を重点項目に据え、本校と府中第九中学校が一体となって、思いやりと活力のある児童生徒の健全育成に取り組む。</p>	<p>○家庭と連携を図り、健康で安全に生活する意識を高め、望ましい生活習慣の確立を図る。</p> <p>○5年生での稲作活動や各学年の農作物づくり等に地域の協力体制を得るとともに、6年生の鼓笛活動を通して地域に貢献する心をはぐくみ地域社会の一員としての自覚を高める。</p>	<p>①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を、ICTを効果的に活用し実践する。学び合いによる言語活動を意図的に位置付け、思考力・判断力・表現力等を育成するとともに、カリキュラム・マネジメントによる各教科で身に付けた知識・技能とつなげて、課題を解決する実践的な力を育成する。</p> <p>②児童が各教科で学んだ主体性を発揮できる活動を推進する。宿泊学習、学級活動、児童会活動やクラブ活動の充実を図るとともに、集団の一員としての役割を自覚し、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的・実践的な資質と能力を養う。</p> <p>③「都体力調査結果」等を踏まえて体力向上の課題を明らかにし、体育的活動の奨励等、全校体制での体力向上の取組を一層充実させ運動の日常化を推進する。</p>
府中第九小	<p>人権尊重の理念を基調とし、心の教育を重視するとともに、確かな学力を付け、社会の変化に対応できる豊かな人間性と社会性を育む。そして、世界の人々に貢献できる誇りある「府中っ子」を育てるため、次の通り学校の目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。</p> <p>○思いやりのある子…豊かな発想や感性をもち人や自然を大切にするとともに、相手の立場を考え、誰とでも仲良く協力する心豊かな子「人間関係形成力」</p> <p>○よく考える子……何のために学ぶのか自らよく考え、学ぶ力を身に付け、互いに関わり合いながら学ぶことに喜びを感じる子「問題解決力」</p> <p>○やりぬく子……心身ともに健康で、善悪を判断し、失敗を恐れず、たくましく物事をやりぬくことのできる子「実践力」</p>	<p>○児童生徒一人一人の豊かな心の育成並びに学力向上を通して、個性の伸長を図り、夢や希望の実現に向けて、主体的・協働的に生きる力の育成を図る。(一中学区)</p> <p>○小中連携の目標にする「学び」と「育ち」の実現に向け、府中市立府中第一中学校、府中市立府中第一小学校との連携をより一層充実させるとともに、学習や生活指導に関する指導連携を推進する。</p> <p>○近隣の府中高等学校・幼稚園・保育所(園)等と組織的に連携し、交流や情報交換を行い、健全育成を図る。</p>	<p>○地域と家庭、学校が連携し、学校「一枚岩」として教育活動を行う。教師の視点だけではなく、保護者の視点、地域の大人の視点も大切にし、三者が連携して子供たちを育てていくことを大切にする。</p> <p>○「未来へつなぐ府中2020レガシー」のふるさと学習では、ふるさと府中歴史館や郷土の森博物館、地域に残る歴史的遺産を活用した調べ学習や体験的な学習を通して、「府中囃子」など郷土府中の伝統的な行事、芸能、文化遺産に親しむとともに、その意味や意義について考え、郷土府中への愛着や誇りを培う。</p>	<p>①朝学習や学校支援員・学習ボランティアによる個別指導等により、学び残しやつまずきの解消を図る。</p> <p>②学校、家庭、地域が連携してセーフティ教室や合同防災訓練等を実施することで、防災意識を高めるとともに、児童に自らの身を守る態度を身に付けさせるために「防災ノート～災害と安全～」を積極的に活用する。</p> <p>③体育科の授業では、都の体力テストの結果を分析し、本校児童の体力の実態に沿って体力向上に向けた取組や各学年の体育科授業の指導に生かすとともに運動の日常化を目指し、休み時間の外遊びを全校で奨励する。また、「なわとび月間」「持久走月間」を設け、全校体制で縄跳びや持久走に意図的計画的に取り組みさせるなど、体力向上の取組を一層充実させる。</p>

学校名	教育目標	本校の教育の特色		
		小・中連携教育	学校・家庭・地域の連携協力	①学力の向上 ②健全育成 ③体力の向上と健康の保持増進
府中第九小 仲よし学級	<p>児童一人一人に基礎・基本の力を身に付けさせるとともに、障害理解教育を推進し、障害のある児童も障害のない児童もたくましく生きることのできる児童を育てる。</p> <p>○豊かな心を持ち、楽しく友達や社会・自然と関わる力を育てる。「人間関係形成力」</p> <p>○よく考え、意欲をもって、互いに関わり合って学習する態度を養う。「問題解決力」</p> <p>○健康・安全・安心を基本とし、善悪の判断ができる規範意識を育て、自立して生活できる力を育てる。「実践力」</p>	<p>○児童一人一人の能力や適正に配慮し、社会適応・社会的自立を目指す態度を育てる。</p> <p>○保護者と十分な意見交換をしながら連携を図り、実態に応じた適切な進路指導を行う。</p> <p>○キャリア教育の一環として、中学校との交流を通して将来の見通しをもったり、学級の係活動行ったりすることで、自分の役割を果たそうとする意欲や態度を育てる。また施設見学等を通して、様々な職業に興味をもたせる。</p>	<p>○家庭と連携をとりながら生活のリズムや基本的な生活習慣を身に付け、身辺自立の確立を図る。</p> <p>○連絡帳・学級通信・保護者会・面談等により、家庭との連携を密にする。</p> <p>○医療や福祉などの外部諸機関との連携を図り、個の教育的ニーズに応じた支援を行う。</p> <p>○生活指導部と連携し、特別支援教育の理解・啓発に関する講演会や学習会を行い、共通理解を図る。</p>	<p>①一人一人の発達段階に即して、基礎的・基本的事項を繰り返し指導する。日常生活に結び付いた学習を指導し、社会生活への発展を図る。個々の発達段階に応じた基礎・基本の学力定着及び向上を図るとともに、思考力・表現力を育成する。</p> <p>②各教科との連携を図り、コンピューターやインターネット等 ICT の基本的な操作や、情報モラルを適切に活用できるように指導を充実させる。</p> <p>③オリンピック・パラリンピックレガシーでの学びを生かし、アスリートを招いた授業に参加したり年間を通して縄跳びを実施したりして、運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる。</p>
府中第十小	<p>児童一人一人のもてる力を伸ばし、個性豊かに世界に活躍する“府中っ子”を育てるために、次の目標の達成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あかるく健康な子ども : 「心身の健康・実践力」 ・仲よく助けあう子ども : 「自己理解・他者理解力」 ・すすんで学習する子ども : 「問題発見・解決力」 	<p>○府中第二中学校、白糸台小学校との連携を一層深め、指導の共通性をもたせ、9年間を見通したカリキュラムの作成・実施に取り組む。特に特別に支援が必要な児童・生徒に対する指導方法について、共通理解・共通実践を進める。また、主体性や礼儀正しさ等を育成する共に、読書や体力づくりに進んで取り組む子供を育てる。</p>	<p>○スクール・コミュニティ協議会の委員の意見を教育活動の改善に生かしていく。また、ボランティア組織「共育本部」の活動を発展させていくために、地域コーディネーターとの連携を進め、放課後算数教室やサマースクール、環境整備等学習環境の充実を図る。</p>	<p>①児童が主体的に学習に取り組む授業スタイルを確立し、児童が問題を見出し解決の見通しをもって取り組むことができるようにする。また、タブレット端末を有効に活用した実践とこれまでの実践のハイブリッド型の授業づくりを進める。</p> <p>②家庭と連携を図り、望ましい生活習慣の形成を推進するとともに、自己の健康を考え健全な生活を実践する力を育む。また、「防災ノート～災害と安全～」や「東京マイ・タイムライン」を活用し、防災教育を進める。</p> <p>③問題解決的な体育学習の実践や運動能力調査等を通し、自分の体や心の動きを見つめ直し、自己調整できるようにする。また、運動の日常化を図るために、家庭と連携し、運動習慣の確立に向けた取組を推進する。</p>
武蔵台小	<p>子供の思いや願いが開花する学校を目指して、知・徳・体の調和のとれた子ども、すなわち、子供自身が何をなすべきかを考え、考えたことを自分の言葉で伝え、自他を尊重し行動できるたくましい武小っ子を育成する。そのために、次の子供像を掲げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ よく考える子ども(自ら課題を見つけ、深く考え、判断し、解決する子供:「問題解決力」) ○ 思いやりのある子ども(豊かな情操と瑞々しい感性をもち、互いを大切にすること:「人間関係形成力」) ○ じょうぶな子ども(健康で明るく、自らめあてをもって努力する子供:「実践力」) 	<p>○隣接の府中第七中学校・府中第七小学校との小中連携の日を年3回設定し、学習や生活の情報等を共有して一貫した指導に努め、進路や進学についての期待と意欲を高める。</p> <p>○ネット犯罪の加害者や被害者にならないための知識やインターネット等の適切な使用方法を身に付ける情報モラル教育を、「SNS府中ルール」を活用して府中第七中学校及び家庭と連携して行う。</p>	<p>○子供が共生社会の中で健やかに成長するように、学校・家庭・地域の役割と責任を明確にして協働による教育を一層推進する。そのために、スクール・コミュニティ協議会を中心に情報を共有し、相互の教育力を生かし、持続可能な社会づくりに関わる府中 ESD レガシーの推進に努める。</p>	<p>①全学年で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を実施する。子供を主体とした学習過程を行い、「分かる・できる」喜びや学ぶことの楽しさを実感させたり、「協働的な学び」の充実を図ったりすることで、学力の向上を図る。また、学習の基礎・基本の確立のため、週1回実施の朝の学習や月1回実施の放課後チャレンジ、家庭学習等において、「東京ベーシック・ドリル」や「eライブラリ」を繰り返し活用し、一人一人の学習状況に応じた「個別最適な学び」を推進する。</p> <p>②セーフティ教室や地域安全連絡会(教育を語る会)の実施により、家庭、地域及び関係諸機関との連携を密にし、地域全体で子供の健全育成に努める。</p> <p>③「体力向上ハンドブック」等を活用し、「1校1取組」を実施し、年間を通して計画的に体力向上に向けた指導の充実を図る。また、体力調査結果を分析し、投力、持久力、跳躍力等の課題解決に向けた運動に親しめる場の整備などの全校的な取組を行う。</p>
住吉小	<ul style="list-style-type: none"> ◎やさしく (A:人間関係形成力:相手を認め、誰とでも力を合わせられる力) ○かしこく (B:問題解決力:自ら問題を発見し、解決する力) ○たくましく (C:実践力:困難に立ち向かう強いからだの行動力) 	<p>○中学校区で目指す子供像と育成すべき力を共有し、「学び」の系統性と「育ち」の継続性の視点から、学習及び指導内容を整理した具体的なカリキュラムを作成・実施する。また、第八中学校区各校の特色を生かし、各校での実践を積み上げ、それを共有し高め合うことで、英語、道徳、プログラミング教育などの充実を図る。さらに、地域の特性を生かした体験的な活動や探究的な学習を取り入れたふるさと学習を推進する。</p>	<p>○スクール・コミュニティ協議会及び地域コーディネーターを活用し、家庭や地域と連携した地域協働の教育活動を推進する。そのため、第八中学校区の学校や青少年対策委員会との連携を図り、双方向から教育活動の活性化を進める。また、ふるさと学習の一環として、地域の人々の生き方に学ぶ体験的な教育を実現させ、子供たちに地域を愛するふるさと意識を醸成するとともに、地域に対して自分たちができていることを考え、実践していく力を付けさせる。さらに、育てるべき子供像(教育目標)を学校と地域が共有しながら教育を進め、学校評価を適切に行い地域に開かれた教育課程への改善に努める。</p>	<p>①基礎的・基本的な学力の定着を図るため、東京ベーシック・ドリルを活用した繰り返し学習の充実を図る。また、授業ではタブレット端末や、大型モニター、書画カメラなどの ICT 機器を効果的に活用したり、能力・習熟度に応じた少人数指導、学校経営支援員等を活用した個に応じた指導をしたりすることで、多様な児童一人一人に応じた「個別最適な学び」や児童の個性を生かす「協働的な学び」の充実を図る。</p> <p>②学級活動や児童会活動・クラブ活動・学校行事・縦割り班活動などの集団活動を通して、豊かな人間関係を築く力や社会性を育成し、よりよい生活と望ましい集団活動の素地を培う。</p> <p>③体力テストの結果をもとにした体育の年間指導計画の見直しや授業改善を行う。また、体育行事委員会を中心に、縄跳び旬間、持久走旬間など、年間を通して全校体制での体力向上の取り組みを一層充実させる。さらに、家庭と連携し、規則的な運動習慣の確立に向けた取り組みを推進し運動の日常化・体力の向上を図る「性教育の手引」を活用し、養護教諭を中心に教職員の共通認識の下、人間の性を人格の基本的な部分として、生物的側面、心理的側面、社会的側面に加え、生命尊重から捉え、発達段階に応じた系統的で計画的・継続的な性に関する指導の充実を図る。</p>

学校名	教育目標	本校の教育の特色		
		小・中連携教育	学校・家庭・地域の連携協力	①学力の向上 ②健全育成 ③体力の向上と健康の保持増進
新町小	<p>豊かな心と健やかな心身を育み、知の育成を進めていく。共生社会の担い手として多様な人々と協働し、自己のよさや可能性とともに、他者の人格や個性を尊重しながら生きていく児童を育成するため、次のとおり、学校の目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。</p> <p>○よく考えて伸びる子（生きて働く知識や技能、思考力や判断力などを習得し、確かな学力を身に付ける児童…問題解決力）</p> <p>◎思いやりをもって伸びる子（思いやりの心をもった豊かな心を醸成し、自己も他者も大切に、みんなと仲良くする児童…人間関係形成力）</p> <p>○体をきたえて伸びる子（健康で明るく、目標をもってすすんで行動する児童…実践力）</p>	<p>○府中版コミュニティ・スクールの取組を推進するとともに、府中第五中学校区での「中学生ボランティア活動」や「五地区サミット」等の取組を通して、小中連携、小中連携を推進する。また、幼保小中間での教育課程の共通理解や生活状況の伝達等、連携を密にすることで個に応じた指導の充実を図る。</p>	<p>○学校、保護者、地域が思いを一つにし、一体となりながら児童を育み、自分の将来をしっかりと見据え、自己肯定感をもち、自分の将来に明るい展望をもたせる学校を構築する。学校・家庭・地域の役割と責任を明確にすると共に学校間の組織的な対応力を高め、自ら学び、考え、思いやりの心をもった児童・生徒に育てる。</p>	<p>① 確かな学力の育成のため、教科等横断的な学習を展開し、探究的な活動を通して「自力解決・学びあい」の授業スタイルを実施していく。また、知識及び技能を習得するための家庭学習や放課後の支援学習を展開していく。放課後学習教室を開催するとともに、個別最適な学びを目指し、環境の整備と指導体制の充実を進める。</p> <p>② 豊かな心の育成のため、児童同士の関わりの中で、思いやりの心・人間関係力・コミュニケーション力等を育てる。また、動植物との触れ合いを通じた命の尊さや共に生きる素晴らしさを感じさせる。</p> <p>③ 健康的な心身をつくるために、規律正しい生活習慣と運動や食事、日常的な体力向上プロジェクトなどを通して自らの身体や運動能力、健康を高めようとする意欲や態度、実践力を育てていく。</p>
本宿小	<p>心身ともに健康で、知性と感性に富み、自ら学ぶ実践力をもつ人間性豊かな児童「輝きのある子」の育成するため、次のとおり、学校の目標とこれを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。</p> <p>◎ やりぬく（自分の考えをもち、やりぬく子ども：問題解決力）</p> <p>○ 仲良く（豊かな心をもち、仲良く助け合う子ども：人間関係形成力）</p> <p>○ きたえる（健康安全に気を付け、身体をきたえる子ども：実践力）</p>	<p>○中学校区内の各校と連携を進展させ、互恵的な児童・生徒交流及び相互の授業協力等の取組を行い、学びと育ちの両面から、義務教育9年間を見通した教育の基盤作りを進める。</p>	<p>○スクール・コミュニティ協議会を軸に、地域社会・家庭の協力の下、農園活動・稲作活動・ヤギの飼育・福祉体験・伝統文化体験・身近な環境問題についての取組や、奉仕的活動等を通して、地域社会の一員としての自覚を育てるとともに、課題解決の力や豊かな心を育む。</p>	<p>① 校内研究で得られた成果を基に、児童の深い学びの実現、そして充実を図るために効果的に ICT を活用する授業の推進により教育活動を充実・発展させる。授業では児童全員が主体的に参加し、より効果的に ICT を活用しながら互いに学び合い、深め合う授業改善の取組を通して、児童に生きて働く知識・技能を習得させ、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力を育成し、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力や人間性等の涵養を図る。</p> <p>② 授業や行事において異学年交流や縦割り活動を充実させ、他者との望ましい人間関係づくりや自他を尊重する態度を身に付けさせるとともに自己有用感を育み自己肯定感の向上につなげる。</p> <p>③ 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育むことを目標に、運動の日常化に向けた学習活動を推進し、年間を通して運動に取り組みせ、児童の体力の向上や健康の保持・増進を図る。</p>
白糸台小	<p>人間尊重の精神を基調とし、平和を愛し、広く国際社会において信頼と尊敬が得られる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成。</p> <p>◎ 「すすんで学ぶ子」（重点目標） 児童が自分の考えをもち、学び合う</p> <p>○ 「助け合う子」 児童が互いのよさを認め合い、高め合う</p> <p>○ 「たくましい子」 児童が健康で安全に生活する</p>	<p>○第5学年「わくわく自然教室」、第6学年「日光林間学校」の中学校との系統性・連続性のある学びの実現に向け、第二中学校区で系統的な目標を設置し、義務教育9年間を見通した宿泊体験学習の実施を行う。</p> <p>○小中連携の日、授業研究会等を実施し、府中第二中学校と府中第十小学校との連携を深め、学校間・校種間の引継ぎを確実にを行うとともに、意図的・計画的なキャリア教育の充実を図る。</p>	<p>○近隣の幼稚園・保育所、高齢者施設、芸術家、地域との交流・連携を深め人との関わりを重視し、地域ぐるみの教育を推進し、地域に根ざした学校づくりを展開する。</p> <p>○地域コーディネーターと教員が協働体制を構築し、ふるさと学習を通して府中の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を身に付ける。</p> <p>○学区の危険箇所を把握し、家庭・地域と一体になった対策を講じ安全教育を推進する。</p>	<p>① 「東京ベーシック・ドリル」「eライブラリ アドバンス」を活用。また、習熟度別少人数指導を活用し、基礎・基本を徹底して定着させる。また、ICT やデジタル教材を活用し、多様な児童一人一人に応じた個別最適な学びを意図的・計画的に設定する。</p> <p>② たてわり班活動を通して、高学年の自主的・主体的態度を育てるとともに、異学年との関わりを大切に、豊かな人間関係を構築する。</p> <p>③ 運動の日常化を進め、全校体制での体力向上の取組として、持久走や縄跳びタイム等の充実を図る。さらに、家庭と連携し、規則的な運動習慣の確立に向けた取組を推進する。</p>
矢崎小	<p>変化の激しい社会の中で、人と社会、自然環境等と主体的にかかわり、たくましく生きていく児童を育成する。</p> <p>◎ 学び考える子 （必要な情報を活用して論理的に考え、主体的に問題の解決に向けて取り組む児童） ：「問題解決力」</p> <p>○ 思いやる心 （友達の良さと自らの良さを認め、人や自然となかよく共生できる児童） ：「人間関係形成力」</p> <p>○ 明るく元気 （心身ともに充実させ、目標に向かって努力し最後までやり抜く児童） ：「実践力」</p>	<p>○小中連携を基盤として、挨拶や話型、ハンドサイン、ノート指導等、矢崎スタンダードに基づく実践に取り組み、小中の円滑な接続を踏まえた指導内容を充実させる。</p> <p>○近隣の保育園、幼稚園、小学校、中学校との授業連携や情報交換を密に行い、「学び」や「育ち」に関して幼児期の教育や中学校教育と円滑な接続が図られるような教育活動を実施する。</p>	<p>○「水と緑と文化の矢崎小」をキャッチフレーズとし、多摩川や近隣施設、地域を生かした体験的な学習活動の充実を図り、自然や地域を大切に育むとともに、地域の方と共に進める農業体験学習を通して勤労観を慈しみ、ふるさと府中を愛する心情を育てる。</p> <p>○地域行事への参加や地域の人的・物的教育資源を活用するにあたり、コーディネーターの機能を活用しながら地域ぐるみの教育を一層推進し、地域と学校の双方向で活性化を図る。</p>	<p>① 習熟度別少人数指導、子供たち一人一人の課題に学年を超えて対応した朝学習等を行うことで個別最適な学びの充実を図るとともに、ICT を最大限に活用して児童一人一人の特性に寄り添う指導を展開することで協働的な学びの充実を図る。</p> <p>② 「全校遠足」「短なわ跳び集会」「6年生を送る会」など、年間を通してたてわり班による異学年交流を行うことで、学年を超えて、互いのよさを認め合い尊重し合う豊かな心情を育てる。また、交通安全教室、セーフティ教室、水害を想定した避難訓練等の安全教育を充実させるとともに「府中市防災ハンドブック」などを積極的に活用することにより、児童自らが安全に行動し、社会の安全に貢献できる資質や能力を育成する。</p> <p>③ 府中市「体力向上ハンドブック」等を活用するとともに、「体力向上月間」「ふちゅうロープチャレンジ」「持久走記録会」を通して体を動かす心地よさを味わわせるとともに、学校だけでなく家庭でもできる運動例を紹介することで、家庭と連携して運動する意識や体力を向上させる。また、中学年でラグビーを、低学年でタグを使った宝とり鬼ごっこを扱い、ラグビーの町府中として系統的にラグビーに関する資質能力を育む。</p>

学校名	教育目標	本校の教育の特色		
		小・中連携教育	学校・家庭・地域の連携協力	①学力の向上 ②健全育成 ③体力の向上と健康の保持増進
若松小	一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、基本理念「子どもの『学びたい』をはぐくみ、かなえる若松小」の下進める本校の教育について、目標と、これらを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。 ◎自ら考える子（必要な知識を身に付け、自ら考え、判断し、行動する児童）：知識、自律的活用力、役割認識・遂行力 ○思いやりのある子（自他の違いを認め、相手を尊重できる児童）：自己理解、関係形成力 ○たくましい子（目標をもち、課題や困難に立ち向かう強い心と体をもつ児童）：GRIT	○幼児教育から小学校教育へ円滑に移行することに資するため、入学後2か月間をスタートカリキュラム実施期間とする。5月と2月に近隣の幼稚園及び保育所と幼児・児童の実態や指導の在り方などについて理解を深めるための“保幼小連携会議”を開催する。 ○浅間中学校、府中第二小学校と学習に取り組む心構えや態度について共通に指導するとともに、連携した児童引き渡し訓練など実践的な連携教育を推進する。また、隣接する東京都立府中工業高校とも、広域避難訓練やキャリア教育を中心に連携を進める。	○若松小コミュニティ・スクールにおいて、学校評価をコミュニケーション・ツールとして活用し、地域及び家庭と学校の教育課題を共有し、“社会に開かれた教育課程”の実現に努める。 ○府中市障害者福祉課及び府中市社会福祉協議会、府中市内の障害者団体、各障害者スポーツ協会等と連携し、児童が多様性を受け入れ、持続可能な社会の創り手となることができるよう、“未来へつなぐ府中2020レガシー”として障害者理解教育を推進する。	①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して“個別最適な学び”の充実と“授業のユニバーサルデザイン化”に一体的に取り組み、児童が学習指導要領に示された内容を確実に習得し、資質・能力を身に付けられるようにする。また、大学と共同研究に係る協定を締結し、協働で学習障害等学習に困難のある児童のための学習支援について実証的研究を行う。 ②「いじめは、どの学校でも、どの子にも起こり得る」との認識の下、いじめの未然防止や早期対応に努めるだけでなく、タブレット端末を活用した定期的なアンケート“こころの天気予報”を実施するなど、すべてのいじめについて把握できるよう取組の充実を図る。また、児童主体の“絆づくり”と教職員主体の“居場所づくり”をスローガンに不登校への対応の在り方を見直す。また、要保護児童対策地域協議会に属する組織や専門家との情報共有を積極的に行う。 ③児童の健康の保持・増進に向け、民間企業等と連携して体育科体づくり運動系領域の授業改善と運動の日常化に取り組むとともに、健康教育を充実する。
小柳小	人権尊重の理念に基づき、学校・家庭・地域社会の連携の中で児童の安全を確保するとともに、個性を重視し、心身ともに健康で、知性、感性、道徳心や体力を育み、心豊かでたくましく、ふるさと府中を愛し誇りにもち学び続ける児童の育成を目指し、次の教育目標と、育成を目指す資質・能力を掲げ、学校教育を推進する。 ○かしこく…自ら学び共に考えをつくり上げることのできる子「思考力・判断力・表現力」 ○やさしい…自他を尊重できる子「人間関係形成能力」 ○元気な子…心身ともに健康でたくましく、粘り強く頑張る子「実践力」	○府中第六中学校区の小中連携を推進し、義務教育9年間の「学び」と「育ち」の継続的な指導を進める。 ○課外活動であるプラスバンド部の活動を計画的に行い、地域の幼稚園・保育園、小・中学校、高等学校、高齢者施設との連携活動を活性化させる。 ○不登校について保幼小連携や小中連携を図り、情報を共有するようにする。	○学習指導要領の理念に基づき、育成する資質・能力を職員・地域・保護者とで共通理解を図る。 ○心豊かでたくましい児童を育成するために、府中版コミュニティ・スクールの活動を推進し、地域・保護者・学校が一体となった教育活動を推進する。	①「学び合い」及び「言語活動の充実」の視点から算数習熟度別・少人数指導など、各教科の指導法の工夫・改善を行い、学力の定着・充実を図る。また、算数等の学力向上をねらい、統計グラフコンクールに取り組んでいく。 ②道徳的価値についての理解をもとに、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を実践し、道徳性を養う。また、東部地区スポーツ振興会や青少年対策地区委員会等、関係諸機関と連携し、児童の健全育成を推進する。 ③運動の日常化を進め、体力向上を図るために全校及び各学級で、進んですすんで体を鍛えるような場と機会の拡充を図り、推進していく。本校の児童の実態を基に、「投げ投げ週間」「縄跳び旬間」「持久走旬間」に計画的に取り組み、家庭との連携を意識しながら、体力・運動能力の向上を図る取組を行う。
小柳小 仲よし学級	人権尊重の理念に基づき、学校・家庭・地域社会の連携の中で児童の安全を確保するとともに、個性を重視し、心身ともに健康で知性、感性、道徳心や体力を育み、心豊かでたくましく、ふるさと府中を愛し誇りにもち学び続ける児童の育成を目指し、次の教育目標と、育成を目指す資質・能力を掲げ、学校教育を推進する。 ○かしこく…自ら学び共に考えをつくり上げることのできる子「思考力・判断力・表現力」 ○やさしい…自他を尊重できる子「人間関係形成能力」 ○元気な子…心身ともに健康でたくましく、粘り強く頑張る子「実践力」	○小中連携教育において進学する中学校と連携し、個性や能力の一層の伸長を図り、キャリア教育を推進するため、9年間を見通した教育活動を行う。 ○不登校について保幼小連携や小中連携を図り、情報を共有する。 ○「小中連携の日」での授業交流や、進路に関する情報交換などを通して、中学校との連携を図る。	○道徳授業地区公開講座などで保護者や地域との連携を図り、児童の実態と身に付けたい道徳的価値について共有し、道徳的実践力を育成する。 ○食育や歯磨き指導、セーフティ教室、交通安全教室などでの安全指導、防災ノートを活用した防災に関する指導を積極的に行う。家庭・地域との連携を通して、健康・安全を心掛け、自分の身を守る態度を育てる。	①個々の児童の障害に応じた指導内容として個別指導を重視するとともに指導形態、集団構成等を工夫する。また学習規律の確立を図り、基礎学力の定着や認知力、言語能力と学習意欲の向上を図る。 ②自立活動を、教育活動全般を通して行い、状況変化への対応、他者の意図や感情について学びながら、集団生活における望ましい関わり方ができるようになっていくことに重点を置く。また、全ての教育活動における道徳教育と密接な関連を図り、「善悪の判断」「命の大切さと思いやり」「尊敬と感謝の念をもつ」など、豊かな人間性を培い道徳教育の充実を図る。 ③年間を通して持久走に取り組み、継続して取り組む力を育てるとともに、体力の保持増進を図る。
南白糸台小	持続可能な社会の創り手として、共生社会を豊かな創造性と人間性で、主体的に生き抜く児童を育成するため、次のとおり、学校の目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。 ・進んで学ぶ子ども（様々な課題を主体的に解決しようとする児童：「社会参画力」） ・助け合う子ども（違いを認め合い、みんなと共に生きていこうとする児童：「人間関係形成力」） ・たくましい子ども（なりたい自分に向けてあきらめないで努力する児童：「自己実現力」）	○府中第六中学校区の小・中学校が連携し、義務教育9年間を見通した教育活動を推進する。学校行事や地域行事での中学生ボランティアやあいさつ運動等の実施する	○学校が地域・家庭との連携・協働により「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す中で、児童の教育活動の充実、地域での健全育成、地域の活性化とコミュニティ・スクールの取組を推進する。 ・地域、保護者と連携した行事の実施：つくって遊ぼう・森の音楽会等 ・児童スポーツ団体との連携：連絡会（年3回）・体験見学会（年2回）の実施 ・朝読書や読書旬間、学校図書ボランティア「ポケット」による読み聞かせ（低学年毎週、中学年隔週、高学年月1回）を中心とした読書活動の実施 ・各自治会、保護者の協力の下、4年生の地域安全点検（マップ作り）の実施	①基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けさせると共に、自ら課題をもち、自ら考え、主体的に判断し行動する能力の育成を図る。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図り、ICTを最大限活用しながら、問題解決的な学習や体験的な学習など、多様な教育方法や内容を工夫することにより、児童一人一人に応じた個別最適な学びと多様な個性を最大限に生かす協働的な学びの充実を図る。 ②各教科・領域と関連付けて、児童の発達段階に応じた安全教育の充実を図り、安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動と結び付けることができる資質・能力を育成する。 ・登下校中や給食中など火災、地震、水害等多様な想定避難訓練の実施やセーフティ教室の開催により安全指導の充実を図る。 ③体育科の授業を中心になわとび等の取組を計画的・継続的に行い体力の向上を図る。また、体力調査結果等を活用し自己の体力への関心を高めると共に、家庭と連携し運動習慣の確立に努める。食に関する指導において、児童の食物アレルギーに関する知識を深めるとともに、家庭と連携を図りながら、望ましい食習慣を形成する。

学校名	教育目標	本校の教育の特色		
		小・中連携教育	学校・家庭・地域の連携協力	①学力の向上 ②健全育成 ③体力の向上と健康の保持増進
四谷小	<p>人間尊重の精神を基盤とし、主体的に学習し、社会の一員としての自覚をもつとともに、心身ともに健康で自他を肯定的、共感的に理解できる子供を育成するため、次のとおり、学校の目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。</p> <p>◎学ぶよこび 自ら学び、進んで考え、工夫をこらし、目標実現に努力する子供を育てる。</p> <p>○自ら学び、進んで考え、工夫をこらし、目標実現に努力する子供を育てる。「問題解決力」</p> <p>○ふみ出すつよさ 良い生活習慣を身に付け、進んで体を鍛え、心身ともに健康な子供を育てる。：「実践力」</p> <p>○人へのやさしさ 自他の生命や人権を尊重し、生きる喜びや思いやりに満ちた心豊かな子供を育てる。「人間関係形成力」</p>	<p>○地域コーディネーターの機能を活用し、地域及び府中第八中学校・住吉小学校・日新小学校と連携して、自然災害等を含めた防災教育を推進し、子供の危機管理意識・自ら身を守る能力の向上を図る。</p>	<p>○「四谷小スクール・コミュニティ」と連携し、近隣農家での農業体験学習、「歴史の小部屋」等の活用、「どんど焼き」等の伝統ある地域行事への参加や養護老人ホームとの交流活動を通してふるさと学習を推進し、地域の自然や文化、人々との関わりを深め、福祉への意識を高め、地域への愛着を育む。</p>	<p>①算数科における習熟度別少人数指導や個に応じた指導、高学年での一部教科担任制、「東京ベーシック・ドリル」やタブレット端末を活用して計画的に学年を超えて立ち戻る指導等を行うとともに、「基礎学習タイム」の活用や家庭学習の取り組みを通して、読み・書き・計算等の基礎的・基本的な知識及び技能の確かな定着を図る。</p> <p>②「きまり」や「きまりを守ること」の意義についての理解を深める指導をするとともに、学校生活の中でその意義を実感できるような活動を充実させ、社会に対する規範意識を育成する。</p> <p>③「体力向上ハンドブック」「体力アップ大作戦」等を活用し、地域や家庭と連携し、年間の運動を学校全体に意識付け、計画的に体力向上に向けた指導の充実を図る。また、体力調査結果を分析し、投力、持久力等の課題解決に向けた全般的な取り組みを行う。さらに、コーディネーショントレーニングを継続して行い、体力の向上に取り組む。</p>
南町小	<p>22世紀を見ることになる児童の育成にあたり令和の学びを推進する。そのために全ての児童が人格の完成に向け、ふるさと府中に誇りを持ち、知性や感性を磨き、豊かな人間性を備え、心身ともに健康に成長していくことを目指す。</p> <p>◎たくましい子（主体的に、学び体作りをするたくましさ「実践力」）</p> <p>○思いやりのある子（自分も人も大切にすやさしさ「人間関係形成力」）</p> <p>○努力する子（社会の一員として課題にチャレンジ「問題解決力」）</p>	<p>○“みそあじじ”（みだしなみ・そうじ・あいさつ・授業・時間を守る）を合言葉に、義務教育の9年間、地域ぐるみの“学びと育ち”が連続するように努める。</p> <p>○義務教育の9年間に加え、幼保小連携教育も推進する。小学校の教員に保育の機会を設け、体験で得た知見を小学校の教育で生かす。</p>	<p>○南町小学校スクール・コミュニティ協議会及び地域コーディネーターと連携する。児童の教育活動に対して、ご意見をいただく場を7回設定する。特に防災教育に関しては、水害を想定して、実際に避難所まで歩く訓練を行う。</p>	<p>①ICTを活用してデジタル図書や百科事典で調べるための読書活動に取り組む。年度当初と終わりに、読解問題を通して数値化し効果測定をする。</p> <p>②縦割り班活動を通して、休み時間に遊んだり郷土の森へ遠足に出かけたりし、体験を通して、リーダーシップやフォロアシップを学べるようにする。</p> <p>③今年度は、体育健康教育推進校の指定を受け“運動に親しみ、自ら健康を促進できる児童の育成”を研究主題とし、授業改善と運動の日常化に取り組む。</p>
南町小 仲よし学級	<p>児童一人一人に生きる力を養い、豊かな人間関係の中で何事にも意欲的に取り組める児童を育成する。</p> <p>◎明るく元気な子（健康・安全に自ら関心を持ち、心身共にたくましい子供を育成する。）</p> <p>○仲よくする子（友達と仲よくし、みんなと協力して活動に参加しようとする子供を育成する。）</p> <p>○最後までがんばる子（必要に応じて他者の援助を自ら求め、あきらめずに最後までやりとげようとする子供を育成する。）</p>	<p>○府中第五小学校、第四中学校との小中連携において、授業観察を通して、情報活用能力の育成や教科授業の改善を図る。</p> <p>○府中けやきの森学園や第四中学校、第一中学校、市の就学支援担当との連携に努め、進路や就労について情報を得て、見通しをもった進路選択ができるように、本人及び保護者と共通理解を図りながら適切に進める。</p>	<p>○校内委員会の充実、スクールカウンセラーや学校支援員の活用、関係諸機関や家庭との連携を通し、学校生活支援シート及び個別指導計画に基づいた支援を行う。</p> <p>○児童の実態や課題のアセスメントのために、定期的な専門家による観察や相談等を行い、個に応じた指導を通して、一人一人のよさを伸ばす。</p>	<p>①一人一人の能力や特性に応じて学習課題を設定し、ねらいに応じてグループを編成し、効果的な指導方法を工夫することによって基礎的・基本的な知識及び技能の確かな定着を図る。</p> <p>②家庭と連携して、基本的な生活習慣の形成と日常生活の適応能力、コミュニケーション能力を養う。</p> <p>③体力向上の取り組みとして、体育の授業では、年間を通じてコーディネーショントレーニングを取り入れ、体幹を鍛える。また、ドッジボール、持久走、長縄跳び、始業前や業間の外遊びを積極的に取り入れる。</p>
日新小	<p>持続可能な社会の創り手として、共生社会を主体的に生き抜くために、「ふるさと府中を愛し世界にはばたく府中っ子」として、日々新たに伸びようとする知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童を育成するため、次のとおり、学校目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。</p> <p>◎ かしこく（すすんで学び考えながら、協働して課題に取り組む児童：「問題解決力」）</p> <p>○ やさしく（やさしい心を持ち、自分も友達も大切にす児童：「人間関係形成力」）</p> <p>○ たくましく（すすんで心や体を鍛え、前向きに行動する児童：「自己理解・実践力」）</p>	<p>○府中第八中学校及び同校学区の小中学校と連携し、義務教育9年間の学びと育ちや「未来につなぐ府中2020レガシー」の推進について、共通実践する。</p> <p>○「SNS府中ルール」に基づいた情報モラル教育の充実について府中第八中学校区小中学校で協働するとともに、家庭や地域と連携しながら非行・犯罪被害防止教育及び命を大切にする教育の推進を図る。</p> <p>○学習内容の系統性や円滑な接続を踏まえた「学び」と、規範意識や道徳性、地域の一員としての在り方を考えさせる指導を踏まえた「育ち」を実践し、充実を図る。</p>	<p>○スクール・コミュニティ協議会等と連携し、地域の教育材を活用した学習を意図的・計画的に設定し、「母校を誇り 誇れる母校をつくる児童」を育成する。</p> <p>○いじめ防止及び不登校対策として、生活指導部や校内委員会の連携・協働及び保護者への啓発等により、組織的かつ家庭と連携した迅速な対応を図る。</p> <p>○特別支援教室拠点校として、校内委員会及び生活指導部の連携したリードで組織的な指導・支援体制を整えるとともに巡回校をリードする。</p>	<p>①基礎的・基本的学習内容及び振り返り力の定着のために、授業中の意見交流を重視した問題解決的な学習活動を積極的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びを通して、知識・技能・思考力・判断力・表現力や学びに向かう力・人間性等の涵養について、バランスよく身に付けさせる。読書活動を通して、豊かな知性・完成を伸ばす。また、「e-ライブラリ」等を活用した学び直しの指導等、家庭学習とつなげた繰り返し学習の充実を図る。</p> <p>②家庭と連携して、「日新三つのあ」：「あいさつ（礼儀）、あつまり（自律）、あとしまつ（共生）」、基本的な生活習慣と学習規律の確立、自他を大切にす心の育成を図る。また、「生命（いのち）の安全教育」を積極的に推進し、食育及び食物アレルギー等についての理解を推進する。いじめ防止や不登校対策について、「日新小 いじめ防止基本方針」やサポートルーム等による対応策を組織的に駆使しながら児童・保護者理解の視点に立ちつつ、安心・安全な学習環境を確保するよう努める。</p> <p>③体づくり運動など様々な領域の体育学習を中心に体を動かす心地よさを味わわせるとともに、「ふちゅうロープチャレンジ」、日新マラソン等の全般的な体育的活動を推進し、休み時間の外遊びも含めた運動の日常化と体力向上を図る。また、保健学習や保健指導を活用して「生命（いのち）の安全教育」を積極的に推進する。</p>

【中学校】

学校名	教育目標	本校の教育の特色		
		小・中連携教育	学校・家庭・地域の連携協力	①学力の向上 ②健全育成 ③体力の向上と健康の保持増進
府中第一中	<p>人権尊重の精神を基盤としたよりよい社会の実現に向けて、自他の生命を尊重し、主体的な判断の下に誠実に行動し、思いやりと感謝の心をもって他者と関わり、正義と公正を重んじ、誰に対しても公平に接し、真理を探究する生徒を育成する。この目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力を以下のように設定する。</p> <p>「創る」「伝える」「結ぶ」</p>	<p>○連携校の小学校との学力向上や生活指導面の円滑な接続を目指して小中連携教育をさらに充実させるとともに地域コーディネーターを活用した府中版コミュニティ・スクールを活性化させるなど、地域と一体となった学校づくりを強力に推進する。</p>	<p>○学校・家庭・地域の協働を図るため、地域コーディネーターを活用することで府中版スクール・コミュニティ協議会を充実させ、地域に開かれた学校づくりに取り組む。その際、青少年対策地区委員会、地元自治会、同窓会、近隣の高校や大学との積極的な関わりを行うことで、地域に根ざし、地域の一員として生きる生徒の育成を図る。</p>	<p>①適切な評価規準に基づく評価活動を行うために、各学習におけるねらいを明確にするとともにねらいを達成するための学習活動を効果的に展開し、適正な評価活動が行われるよう指導する。また、シラバスを活用することで学習の進め方や評価について、生徒が理解を深め、主体的に学習に取り組む意欲と態度の育成を図る。</p> <p>②学校のあらゆる活動を通して、生徒の主体的な取組を積極的に推進し、教員と生徒の共感的な信頼関係の下、自己存在感を涵養するとともに自己決定の場を数多く設定することで生徒の自己指導能力の育成を図る。</p> <p>③健康・安全教育等の指導の充実を図り、生涯にわたり健康な生活を送るための基本的な力と態度を育成する。特に、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を徹底することで生徒が安心して学校生活を送ることができるようにするとともに感染が拡大した際の学習機会の保障のために情報機器を活用できるよう校内体制を確立する。</p>
府中第一中 K組	<p>学校の教育目標「創る 伝える 結ぶ」を受けて、次のように学級目標を設定する。</p> <p>① 基本的な生活習慣の確立を図り、自立に必要な知識・技能・態度・基本的な生活習慣・コミュニケーションの力を育む。</p> <p>② 自己の障害と向き合い、主体的に個性や資質の伸長を図るとともに、能力の向上に主体的に取り組む姿勢を育む。</p> <p>③ 自他を敬愛し、互いに協力する心情・態度を育てる。</p> <p>④ 将来の進路や就労に向けた社会的な自立心・態度・能力を育む。</p>	<p>○小中連携教育の推進を通して、9年間を見通した教育内容・指導方法の連携を図り、自己の個性や適正についての理解を図り主体的に進路を選択できる資質・能力を育てる。特に、中学生が小学校へ出向き中学校の生活について説明する機会を通して、特別支援学級における小中連携の充実と中間ギャップの軽減を図る。</p>	<p>○家庭との連携を通して、社会的自立を目指した基本的な生活習慣並びに学習習慣の向上・自立を目指す。</p> <p>○日課表や保護者会、教育相談等を通して、保護者との連携を密にする。必要に応じて教育センター、児童相談所、子ども家庭支援センター「たち」、医療機関、福祉関係機関等との連携を積極的に図り、家庭支援を推進する。</p>	<p>①一人一人の生徒の能力に応じた指導内容と指導方法を探究し、個に応じた教育の充実を図ると共に、一人一台の端末を積極的に活用したICT教育の活発化を図り、より誰もがわかりやすい授業に向けた工夫・改善を行う。</p> <p>②規範意識の育成、自他の生命を尊重する態度を養うとともに、生徒個々の自尊感情を高め、ありのままの自分で自らの歩で自ら律し切り開いていく自己管理能力と自己責任を果たせる生徒を育成する。</p> <p>③運動習慣の確立と体力向上、心の健康や食に関する指導、薬物乱用防止教育、防災教育を通して、健康な心と体と、生涯にわたり健康な生活を送るための基本的な力と態度を育成する。</p>
府中第二中	<p>人間尊重の精神を基調とし、多様化・国際化する現代にあって、自らを高め、互いに助け合い、人間性豊かな未来社会の担い手を育てる。</p> <p>『持続可能な社会とダイバーシティ・インクルージョンの実現を担う人材を個別最適な指導と学習を通して育成する』</p> <p>◎よく見、よく聞き、深く考え、積極的に活動する態度を身に付けさせる。</p> <p>○思いやりのある豊かな心を培う。</p> <p>○ものごとをやりぬく強い意志とたくましい体を育てる。</p>	<p>○二中校区で学習規律に関する指導内容を明確化し、共通の理解のもと指導を徹底していく。</p> <p>○二中校区共通で学年・学級での指導や挨拶、言葉遣い、身だしなみ、時間を守るなどの規範意識を向上させる指導を通して一層の社会性の育成を図る。</p> <p>○生徒一人一人の個性や能力を伸ばすために、小学校との連携を図りながら3年間を見通した計画的・継続的な進路指導を推進するために、キャリア・パスポートの活用を推進する。</p>	<p>○都立府中工業高校との教育活動連携、都立府中けやきの森学園との教職員及び生徒間の交流と協働学習を行う。</p> <p>○保護者、地域（青少年対策第二地区委員会等）との様々な協働、地域企業や市役所、東京外国語大学等との連携を推進する。</p> <p>○「ふるさと府中」に誇りをもつ生徒の育成に向けて、9年間を通して地域の教育資源や社会科副読本「郷土府中」を活用し、郷土の歴史や伝統文化、地域を愛する心を学ぶ、ふるさと学習を推進する。</p>	<p>①「二中校区の学習の手引き」、学習マラソンや記録表、学習計画表等を活用し、小学校や家庭と連携して家庭学習の充実を図る。東京ベーシック・ドリル、eライブラリアドバンスなどを活用した習熟度に応じた学習指導を行い、「個別最適な指導」を通して基礎・基本の徹底を図る。</p> <p>②SOSの出し方教育(全学年)の充実を図り、自殺防止の視点を含め日常生活において安全に過ごせる環境作りを推進する。性被害・性暴力の背景にある性差別意識の解消及び男女の尊重や自分を大事にすることを理解するため、「生命(いのち)の安全教育」を実施する。</p> <p>③府中市「体力向上ハンドブック」等の活用を行うとともに、都体力調査結果を大学等と連携して分析し、二中校区の小学校と連携した柔軟性を高める指導に重点を置き、生涯を見通した健康への関心・意欲と知識及び技能、思考力・判断力についての能力を高めていく。特別活動や道徳科等と関連付けた「がん教育」を推進する。</p>
府中第二中 K組	<p>人間尊重の精神を基調とし、多様化・国際化する現代にあって、自らを高め、互いに助け合い、人間性豊かな未来社会の担い手を育てる。</p> <p>『持続可能な社会とダイバーシティ・インクルージョンの実現を担う人材を個別最適な指導と学習を通して育成する』</p> <p>◎よく見、よく聞き、深く考え、積極的に活動する態度を身に付けさせる。</p> <p>○思いやりのある豊かな心を培う。</p> <p>○ものごとをやりぬく強い意志とたくましい体を育てる。</p>	<p>○小中連携の日をはじめとする小学校及び特別支援学級との交流により、教職員間で児童・生徒に関する情報を共有しながら、義務教育9年間の指導に系統性と継続性をもたせていく。</p> <p>○二中校区共通で学年・学級での指導や教科指導等学校生活全般を通じた挨拶、言葉遣い、身だしなみ、時間を守るなどの規範意識を向上させる指導を通して一層の社会性の育成を図る。</p>	<p>○家庭・地域との連携のもとに、基本的な生活習慣を確立させるとともに、体力向上や健康な生活への意識を醸成する。</p> <p>○地域の人材を積極的に活用し、地域との交流活動を推進する。</p> <p>○共生・共助社会と持続可能な社会の実現に向けた「未来へつなぐ府中2020レガシー」のテーマと各教科等で学んだ府中市のよさや課題等を関連付け、府中市の未来について考える教育活動を推進する。</p>	<p>①通常の学級との交流及び共同学習については、本人、保護者と十分な話し合いをもち、個別指導計画や個々の状況を踏まえながら積極的に進める。双方の指導を充実させるため、計画的・継続的に推進する。</p> <p>②SOSの出し方教育(全学年)の充実を図り、自殺防止の視点を含め日常生活において安全に過ごせる環境作りを推進する。性被害・性暴力の背景にある性差別意識の解消及び男女の尊重や自分を大事にすることを理解するため、「生命(いのち)の安全教育」を実施する。</p> <p>③毎日の朝マラソンを通じ、基礎体力とやり抜く力を養う。多摩地区特別支援教育研究会主催の球技大会やマラソン大会に参加し、小集団では味わえない他校や他地区との交流を通して、心と体を鍛える指導を行う。</p>

学校名	教育目標	本校の教育の特色		
		小・中連携教育	学校・家庭・地域の連携協力	①学力の向上 ②健全育成 ③体力の向上と健康の保持増進
府中第三中	<p>人権尊重の精神を基調とし、社会の変化に対応し、他者と協働しながら、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育む。また、生徒一人一人の可能性を伸ばしつつ、持続可能な社会の創り手となり得る必要な力を育成するため、次のとおり、学校の目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。</p> <p><校訓>「自他の敬愛」</p> <p>①自分を大切にし、他人を尊敬し楽しい学園を作ろう ：「自己理解・人間関係形成能力」</p> <p>②よく運動し、衛生に注意し、健康な身体を作ろう ：「セルフコントロール能力」</p> <p>③よく勉強し、個性を伸ばし、役に立つ人になろう ：「課題設定・将来設計能力」</p> <p>④勤労をよここび、苦難にうち勝ち、正しく強く生きていこう ：「社会参画能力」</p>	<p>生徒が自己の将来の夢や希望の実現に向けて主体的に進路を選択するとともに、社会性の確立や自立に向け、小中連携教育を通じて発達段階に応じた9年間のキャリア教育を推進する。その際、三中校区の目指す子ども像を小中学校で以下のように共有する。</p> <p>○自立に向けた基礎的・基本的な資質・能力を身に付けている子ども</p> <p>○自己の生き方を考え、主体的に選択することができる子ども</p> <p>○郷土府中に誇りを持ち、地域社会と積極的に関わることができる子ども</p>	<p>○社会に開かれた教育課程の実現に向けて、学校評価を効果的に活用し、スクール・コミュニティ協議会を核とした協働体制(地域運営学校)を確立する。また、地域コーディネーターを活用して「地域ボランティア制度」を通して生徒のボランティア精神を育む。</p>	<p>①全ての授業で、「主体的に学び、自ら考え、個を確立する」という三中生に身に付けさせたい力の向上を図る授業改善に取り組む。その際、規律ある授業の中で、「主体的に学習に取り組む態度」を育むことを通じて、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」をバランスよく向上させ、ICT機器等も活用しながら、他者と連携・協働して社会に参画する資質・能力の向上を図る。さらに、学習評価の方法を見直しつつ、学力調査の結果、生徒の授業評価等を踏まえた「授業改善推進プラン」を活用する中で、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>②基本的生活習慣を確立する5本の柱、「身だしなみ」「清掃」「挨拶」「時間」「授業」(みそあじじ)について生徒が主体的に行動できる力を伸ばす指導の充実を図る。</p> <p>③健康な心と体の育成に向け、保健体育科の授業を中心に学校全体で健康教育に取り組むとともに、協力、忍耐力、粘り強さ等の強い心を育成する。また保健体育科の授業や部活動にコーディネーショントレーニングを取り入れ、運動能力や体力の向上を図る。</p>
府中第四中	<p>・自ら学び、深く考え、より良い判断をし、積極的に行動する人</p> <p>・人や物を思いやり、自らを律しつつ他者とともに協調する人</p> <p>・健やかな心と体をつくり、粘り強く最後までやり抜く人</p> <p>上記の教育目標の達成を目指し、生徒一人一人が自分の良さや可能性を認識し、自他の生命を尊重するとともに、他の人々と協働しながら豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることのできるように、本校では、生徒自身が「主体的に課題解決に取り組むことのできる力」の育成を図る。</p>	<p>○義務教育9年間を見通した学習指導及び生活指導を推進するために、小中でのカリキュラムに関する協議を通して、四中校区のカリキュラム改善を推進する。また、小学校第6学年と中学校第1学年の円滑な接続を行い、学力向上に関する方策を立案する。</p>	<p>○スクール・コミュニティ協議会を年間3回開催し、9年間継続した児童・生徒の育成を基に、学校及び校区での諸課題解決の協議や、改善策を策定する。</p>	<p>①生徒の主体的な学習活動を計画的に実施するとともに、ユニバーサルデザインの視点にたった授業実践を行う。また、教育活動全体を通してタブレット端末等のICT機器を効果的に活用した教育活動のさらなる充実を図る。</p> <p>②共感的な信頼関係の下、生徒による自己決定の場を設定するとともに、自己肯定感を育む生活指導を実践する。また、不登校の未然防止及び早期解決のために校内委員会や各関係機関との連携、登校時の居場所づくりを充実させ、一人一人に応じたサポートを推進する。</p> <p>③生徒の体力向上への意欲を高めるとともに、体力テスト等の結果を分析し、保健体育科の授業の質的な改善を図る。また、がんの予防、早期発見、検診などに関心を持ち、命の大切さについて主体的に考えることができるよう指導する。</p>
府中第四中 10組	<p>・自ら学び、深く考え、より良い判断をし、積極的に行動する人</p> <p>・人や物を思いやり、自らを律しつつ他者とともに協調する人</p> <p>・健やかな心と体をつくり、粘り強く最後までやり抜く人</p> <p>上記の教育目標の達成を目指し、生徒一人一人が自分の良さや可能性を認識し、自他の生命を尊重するとともに、他の人々と協働しながら豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることのできるように、本校では、生徒自身が「主体的に課題解決に取り組むことのできる力」の育成を図る。</p>	<p>○義務教育9年間を見通した学習指導及び生活指導を推進するために、小中でのカリキュラムに関する協議を通して、改善を図る。</p> <p>○進路指導について、小・中連携の推進により、より早い段階から生徒や保護者の意識を高める。</p>	<p>○地域の小学校、特別支援学校、外部機関、医療機関、福祉機関等との連携を図る。また、家庭とは連絡帳や電話を通じて、日々の指導内容について共通の理解を図る。</p>	<p>①小集団指導、チーム・ティーチングでの指導、指導方法のユニバーサルデザイン化を推進し、自ら積極的に学習する意欲を育てる。また、課題別学習の形態と教材・教具を工夫して基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。</p> <p>②生命の大切さや尊厳の理解をさせ、正しい判断力や節度ある行動等についても指導する。また、生命の安全教育として、「性に関する講演」や「デートDVに関する講演」を実施する。</p> <p>③体育的活動を通してスポーツへの興味・関心を高める。また、教科等と関連付けながら、身体・健康の増進と心の安定を図る。</p>
府中第五中	<p>持続可能な社会の担い手として、多様で質的に豊かな成長につながる新たな価値を生み出していくことのできる生徒を育成する。</p> <p>◎校訓「自己発見」～大人になる練習をし、夢をかなえる土台を築く生徒の育成～</p> <p>・深く考え、志高く生きる人になる (疑問を持ち、考え抜く生徒「課題対応力」)</p> <p>・自他を敬愛し、心豊かな人になる (思いやりのある心と行動力を持つ生徒「自己管理能力・人間関係形成力」)</p> <p>・健やかで、社会に貢献できる人になる (一歩前に踏み出し、粘り強く取り組む生徒「社会形成力・社会貢献力」)</p>	<p>○中学校区で目指す児童・生徒像を「自ら学び、考えることができる児童・生徒」「思いやりの心をもった心身ともに健康な児童・生徒」として共有しながら、小中連携教育を展開する。小中連携の日の合同研修会、小学校の運動会ボランティア及び日常の連携等を通して、中学校区全体で多様な生き方があることを理解し、それぞれの「自分らしさ」を大切にすることができる生徒の育成を図る。</p>	<p>○学校運営協議会の活動の活性化を図る。「五地区サミット」「地域未来塾」「地域防災訓練」など、生徒と地域社会、学校と地域の教育的資源を結びつけ、家庭・地域社会と協働する学校づくりを推進する。五地区青少年対やコミュニティ協議会が主催するイベントへのボランティア参加を推奨、府中市社会福祉協議会のフードドライブに協力するなど、生徒が主体的に社会とかかわる体験となる様々な機会の設定に努める。</p>	<p>①計画的に「ねらい」を示し、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を図るため、授業改善を推進する。協働しながら理解する大切さを実感する機会の設定を通して「見方・考え方」を働かせながら学びを生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養を図る。</p> <p>②「自己存在感の感受を促進する」「共感的な人間関係を育成する」「自己決定の場を提供する」「安全・安心な居場所づくりに配慮すること」を教育活動全体において実践する。家庭や地域との連携を図りながら、一人一人を大切に育てる。</p> <p>③タブレット端末を活用し、体力テストの結果等について、生徒各自が課題を分析して把握するなど、保健体育科を中心に、生涯にわたって計画的・継続的に体力・健康づくりを行うことができる力を育成する。</p>
府中第六中	<p>人権尊重の理念を基盤とし、生涯にわたって自ら学ぶ態度と豊かな人間性をもつ生徒を育成することを目指し、以下の教育目標を掲げる。</p> <p>◎ 学力と情操 「課題解決力」及び「思いやり」</p> <p>○ 健康と忍耐力 「自己管理」及び「忍耐力」</p> <p>○ 勤労と責任 「実践力」及び「責任感」</p>	<p>○「学び」の視点・・・家庭学習の時間を記録する「学習マラソン」、登校後の「朝読書」を小中一貫して実施する。また、教科指導連携を行い、9年間を見通したカリキュラム編成を目指す。</p> <p>○「育ち」の視点・・・小学校の運動会の準備や進行の支援に中学生を参加させたり、近隣小学校児童会役員と本校生徒会役員の意見交換会を実施したりするなど、児童・生徒が直接交流する場面を設定し、自己肯定感を育て、豊かな人間性を育てる。</p>	<p>○「地域とともに歩む学校」として府中版コミュニティ・スクールを推進し、地域の期待に応える。さらに、生徒は地域ボランティア活動に積極的に参加することにより、地域社会の一員としての自覚を深める。また、地域から認められる存在として自己肯定感を高め、自己実現を図る教育を展開し、持続可能な社会の創り手を育てることを目標とする。</p>	<p>①ICTを活用して「分かる授業」「個に応じた指導」を行うとともに、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行い、個別最適な学びと協働的な学びを実践する。</p> <p>②生徒会活動、部活動に積極的に取り組ませ、自治的活動、文化活動・スポーツへの興味・関心を広げるとともに、「体育大会」「合唱コンクール」や日常の自主的活動を通じ、主体的に考え、周囲と協調できる生徒を育てる。</p> <p>③保健体育科・養護教諭を中心に、生命の安全教育を実施するなど、教育活動全体を通じ、健康な生活を実践できる資質能力を育成する。</p>

学校名	教育目標	本校の教育の特色		
		小・中連携教育	学校・家庭・地域の連携協力	①学力の向上 ②健全育成 ③体力の向上と健康の保持増進
府中第七中	<p>人権尊重の理念を基本とし、自ら学び、豊かな人間性と強い意志をもち、夢や希望を抱いて卒業する生徒を育成するため、次のとおり、学校の教育目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。</p> <p>◎自分で考える（進んで学び、学んだことを基に自ら考え協働して課題に取り組む生徒：「課題発見・解決能力」）</p> <p>○思いやりのある生徒（優しい心もち、自分も他人も大切に生徒：「人間関係形成・社会形成能力」）</p> <p>○強い意志をもつ生徒（社会に貢献しようとする強い意志をもつ生徒：「自己理解・自己管理能力」）</p>	<p>○「学習指導」国語及び算数・数学の学習において、学びに向かう力を身に付けるための効果的な指導方法や学力調査の結果に基づく課題を共有する。</p> <p>○「特別支援教育」ユニバーサルデザインの視点を意識した学習環境や個別の教育支援計画等の作成に関して共通理解のもと行う。</p> <p>○「自己肯定感を高めるために」各教科・領域や学校全体での取り組みを情報共有し、それぞれの実践につなげる。</p> <p>○「家庭学習の充実」タブレット端末の情報機器を活用しながら、家庭学習の習慣を定着させ、主体的な学習活動への取り組みを促すとともに、基礎的な学力の向上を図る。</p> <p>○挨拶運動、小学生の中学校体験授業、小学校夏季学習教室への中学生のボランティアの協力、小中の教員による共同での教育活動を推進する。</p>	<p>○地域清掃や行事への参加を通して地域と連携したボランティア活動を推進し、奉仕の精神と社会の一員としての自覚を深めさせる。</p> <p>○地域コーディネーターと協働体制を構築し、出前授業や授業ボランティア等、学校と地域が相互に子どもの教育活動に関わり、子どもの地域への愛着や地域の担い手としての自覚を育てる。</p> <p>○持続可能な開発のための教育（ESD）の一環として、各教科との関連において歴史文化とボランティアマインドに重点を置き、学習に取り組む。</p>	<p>①「確かな学力」を定着させるために、授業研究を中心とした研修に努め、授業力の向上を図るとともに、ICTの積極的な活用、指導方法の工夫・改善を図ることによって質の高い授業の充実を図る。また個に応じた指導方法の工夫・改善を行い、小中で連携した学習規律の徹底を図る。課題を解決するために必要な工夫・改善を行い、小中で連携した学習規律の徹底を図る。課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成するために、言語活動の充実を図り、他の生徒と協働して問題解決を図る学習を推進する。</p> <p>②全教育活動を通じて人権教育を推進し、自他の人権を守ろうとする意識・意欲・態度を養う。また基本的な生活習慣の確立と人権を尊重する教育を推進し、規範意識を向上させ、一人一人が安心・安全に充実した学校生活の中で望ましい人間関係を構築する。</p> <p>③生徒一人一人の体力向上を目指し、特に本校の課題である握力・持久力のスコアを高める指導について、「体力向上ハンドブック」等を活用し、保健体育科1単位時間のうちの、導入の時間を工夫して継続的に取り組む。</p>
府中八中	<p>変化する社会の中で、主体的に判断し他者とかわりながら自己実現できる「知・徳・体」で調和のとれた人間性豊かな生徒を育成するために、次の通り学校の教育目標を踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。</p> <p>◎すすんで学ぶ（向学心に燃え意欲的に学ぶことのできる生徒：「課題対応能力」）</p> <p>○丈夫なからだ（心身ともに自ら鍛え自己管理のできる生徒：「自己理解・自己管理能力」）</p> <p>○みんな仲よく（他を思いやり進んで社会貢献できる生徒：「人間関係形成・社会形成能力」）</p>	<p>○小中連携と家庭との連携の取組を核として、「八中学区スタンダード」を発展的に継続する。生徒の家庭学習習慣の充実を基盤とした学力向上へのアプローチと保健体育科授業や部活動を中心とした体力向上を推進するとともに、規範意識の向上や問題行動の防止を目指して家庭、地域と強く連携する教育を推進する。</p>	<p>○家庭や地域社会に守られてきた立場から、守る側に立つ自覚と責任を育む学びを実践する。生徒たちに「強く生き抜く力」を身に付けさせるために、本校の恵まれた地域環境を生かし、小中学校4校の連携（小中連携教育の推進）を基軸として温もりに満ちた、地域と協働（スクール・コミュニティ協議会の運営）する学校づくりを目指す。</p> <p>○地域ぐるみの教育をより一層推進し、学校、家庭、地域が一体となった協働体制を構築する。生徒の健全育成を図るために地域行事への積極的な参加を進める。また、地域と学校が双方向で活性化を図ることを目的として、コミュニティ・スクールの充実を図る。</p>	<p>①すすんで学ぶ：「課題対応能力」を育成するために</p> <p>(1) 個別最適な学びを充実させ、基礎的・基本的な学習を徹底し、教科横断的な学習の充実を図り、「思考力・判断力・表現力等」を育成する。また、各教科において言語活動に取り組み、自ら学び、考え行動できる生徒を育て学力の向上を図る。</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学びの充実のために、学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを推進する。</p> <p>(3) タブレット端末を活用し、課題や目的に応じたICT機器のより効果的な活用を実践し、情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、発信・伝達する力を身に付けさせるとともに家庭学習の一層の充実を図る。</p> <p>②みんな仲よく：「人間関係形成・自己管理能力」を育成するために</p> <p>(1) 人権尊重の理念を正しく理解するとともに、教育活動全体を通して豊かな心の育成を図る。</p> <p>(2) 道徳科を要として各教科との関連を密に図る。道徳的な諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的、多角的に考え、自己の生き方を深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。</p> <p>③丈夫なからだ：「自己理解・自己管理能力」を育成するために</p> <p>(1) 望ましい生活習慣や食習慣の確立のために、家庭と連携した食育を推進するとともに、食物アレルギーに関する知識や理解を深めさせ健全な生活を営む力を身に付けさせる。</p> <p>(2) 全教育活動を通して生徒の知・徳・体について調和的な発達を図り、すすんで平和な社会の実現に貢献する態度を育成する。未来につなぐ八中2020レガシーとして、地域行事への積極的な参加等を通して、地域の一員としての自覚を育てるとともに地域貢献への意識を醸成する。また、教科や総合的な学習の時間において、持続可能な社会（ESD）を実践するために生徒自身に考えさせるとともに、TGGにおける体験活動、日本特有の文化的な活動を体験させる取り組みを行う。</p>
府中第九中	<p>自主・自律を育み誠実な人間になることを目指す 知・徳・体のバランスよい教育実践 自己実現を目指して</p> <p>(1)物事を正しく理解し、創造していくことができる中学生（創造） (2)人や物に対して思いやりのある中学生（思いやり） (3)健康で活力のある中学生（活力）</p>	<p>○九中学区では学習に取り組む心構えや態度について共通に指導する。挨拶運動と下足の整理整頓を小中で継続し行う。</p> <p>○年3回の小中連携では児童と生徒の実態を把握するために互いの授業を見合う取り組みを行う。また中学校教員が小学校に出向き出前授業を行う。</p>	<p>○スクール・コミュニティの協力のもと、保護者、地域の連携を図る。</p> <p>○公開日では保護者、地域に学校の様子を見てもらう。</p> <p>○道徳授業地区公開講座では、生徒の道徳性の在り方について考える機会とする。</p> <p>○地域行事参加を推進するために、家庭に周知し生徒を積極的に参加させる。</p> <p>○「あいさつ」と「心に届く一言運動」を小学校と連携し展開していく。</p>	<p>①生徒同士が意見交換を行う時間を確保し、協働的な学びから自分の学習を振り返りながら深い学びにつながるよう授業を行う。</p> <p>②ルールを意識について自発的に考えさせ集団生活でのルールの在り方を考えさせる。校内、校外で場に応じた挨拶ができる生徒を育成する。挨拶運動を奨励する。</p> <p>③昼休み、体育の時間、部活動等で体を動かすことの楽しさを味わわせ自ら体を動かすように促す。</p>

学校名	教育目標	本校の教育の特色		
		小・中連携教育	学校・家庭・地域の連携協力	①学力の向上 ②健全育成 ③体力の向上と健康の保持増進
府中第十中	<p>よく学び、よく考え、何事にも元気に実践する生徒を育成するため、次のとおり学校の目標とこれを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。</p> <p>◎学ぶ（進んで学び考え、協働して課題に取り組む生徒）「課題対応能力」</p> <p>◎思いやる（人との関わりを大切にしている生徒）「人間関係形成力・社会形成能力」</p> <p>◎鍛える（心身が健やかな生徒）「自己理解・自己管理能力」</p>	<p>○「世界とつながる 英語 Enjoy Week」では、外国語（英語）授業と関連付け、校区の小中学校で「自分のことを身近な人に伝える」を受け、「ALTに府中の魅力を伝える」学習を行う。</p> <p>○9年間の確かな学びと育ちの実現に向け、チームとしての連携を深める。基礎学力の定着を目指し工夫改善を図る。夏季休業補充教室や運動会の補助、挨拶運動、合唱交流を行い、指導の連続性を踏まえ校区で目指す生徒像を明らかにする。</p>	<p>○特色ある学校づくりでは、地域貢献プロジェクト委員が野菜を販売した収益で、介護老人福祉施設に物品を寄贈する活動を行う。</p> <p>○スクール・コミュニティ委員の協力のもと、地域と連携し面接練習を行う。</p> <p>○防災スクールでは、スクール・コミュニティ委員とPTAの協力のもと実施している。</p>	<p>①基礎学力の定着では、個に応じた指導を充実し、「分かった」「力が付いた」と実感できる授業を推進する。タブレット端末の活用によるeライブラリアドバンスやブリタニカ・スクールエディションなどを活用し、生徒一人一人の興味・関心に合わせた学習活動を行う。</p> <p>②生徒の自治活動を推進し、学校行事や生徒会活動をとおりて生徒の自主性を育成する。人権教育、道徳教育を推進し、望ましい規範意識のもと自他を尊重し、思いやりと豊かな人間性・社会性による豊かな心を涵養する。</p> <p>③体力調査の結果を検証し、保健体育科の授業で持久走や単元に応じて運動量を確保する活動内容を工夫することで、全身持久力の向上を図るとともに、家庭と地域で健康の保持増進を推進する。</p>
浅間中	<p>人権尊重を基調として、生命を尊重し、すすんで社会へ貢献しようとする精神をもち、向上心にあふれ、自主性と創造性に富んだ生徒の育成を目指し、次の生徒像を教育の目標として掲げる。これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。</p> <p>○互いにいつくしみ、高きをめざす（生徒一人一人が現代社会の課題を自らの問題として捉え、課題解決に向けて自ら考え実践できる資質・能力を育成する。）「課題対応能力」</p> <p>○行いはさわやかに、思いやりはやさしく（自他を尊重し他の人と共に生きる人権尊重の態度や行動を育む心の教育の充実を図る。）「人間関係形成・社会形成能力」</p> <p>○からだを鍛え、責任を果たす（望ましい生活習慣や体力向上の取組、職業観を育むキャリア教育、ボランティア活動等を通して推進する。）「自己理解・自己管理能力」</p>	<p>○「学び」の指導において、生徒の学習習慣を育てるため、中学校区で共通性をもたせ、系統的・継続的なカリキュラムの連携を検討するとともに、学習規律や学習方法、家庭学習の指導を充実する。</p> <p>○「育ち」の指導において、連続性、継続性を図り、基本的な生活習慣を定着させ、規範意識を高め、秩序ある安定した学校生活を送ることができるようにする。</p> <p>○小中連携教育の取組として、朝のあいさつ運動、連合陸上記録会前の中学生による練習サポート、部活動体験・見学、小中同一日の引き渡し訓練等を実施する。</p>	<p>○不登校の未然防止及び早期解決のために、小学校・家庭・スクールカウンセラー・SWSW・民生委員・府中市子育て世代包括支援センター「みらい」等の関連機関との連携を強化し、定期的に校内委員会を開き、学校内での情報共有を徹底し、組織的かつきめ細かな支援体制の構築を図る。サポートルームを設置し、登校時の居場所づくりをするとともに、不登校対応のための人員配置を工夫する。</p> <p>○地域の教育資源を授業や行事で活用し、地域文化の伝承地・防災拠点としての取組を実施し、芸術文化に親しむ生涯学習の態度を育成する。</p>	<p>①東京都教育委員会より「授業改善推進拠点校」の研究指定を受け、都と国の学力調査の結果の相関関係を分析し、効果的な学び方を身に付けさせる指導方法の開発・実践を行う。一人一台端末を活用した家庭学習のあり方にも着目して、課題解決型の学習過程の改善に取り組み、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。また、評価の場面・方法、評価基準の設定を工夫・改善し、適正な学習評価を研究・実践する。3年間の実践の成果と課題を発表する。</p> <p>②生徒会を中心とした委員会活動及び部活動でボランティア活動を実践する。地域とのつながりを重視し、浅間山保全活動、地域清掃を実施したり、青少年主催の地域貢献活動に参加したりすることを通して、社会奉仕の精神を育てるとともに、生徒自ら考え行動する力を育てる。</p> <p>③保健体育科の授業で、東京都体力調査等の分析を活用して、体力向上・運動習慣の確立に向けた取組を一層充実し、健康の保持増進、意図的・計画的な体力や運動能力の向上を図る。学校便りによる家庭への啓発を行い、家庭の協力を得られる体力向上の取組を推進する。</p>

令和5年度 社会に開かれた教育課程の編成に向けて

令和4年12月8日
教育部指導室

◎令和5年度教育課程編成における重点事項

「義務教育9年間を通して、児童・生徒一人一人の個性や能力を伸長し、社会を主体的・創造的によりよく生きる力を育成する」

教育基本法及び学校教育法その他の法令並びに学習指導要領の示すところに従うとともに、府中市教育委員会の教育目標及び第3次府中市学校教育プランに示される基本理念・目指す人間像を踏まえた教育課程を編成する。

①児童・生徒一人一人の個性や能力を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの充実

全ての児童・生徒に、資質・能力の3つの柱をバランスよく育成するための授業改善に取り組むとともに、タブレット端末やICT機器の活用により、個別最適な学び、協働的な学びの一層の充実を目指す。

◆主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

- ・これまでの実践とタブレット端末の活用を最適に組み合わせた児童・生徒の個別最適な学びの充実
- ・授業の内容を振り返ったり、次の授業の見通しをもったりするなど、タブレット端末を活用した家庭学習の充実
- ・地域と連携した補習教室など学校の実態に応じた、児童・生徒の基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための取組

◆体験的、課題解決的な学習の充実

- ・校外学習、各種コンクール（人権作文コンクールや統計グラフコンクール等）を各教科等と関連させて計画的に位置付け
- ・地域の課題を解決する学習活動やタブレット端末等を活用した異学年や地域等と交流する協働的な学びの充実
- ・競技のトップチームとの連携や外部講師を活用した「がん教育」等、地域や外部機関等と連携した体力向上、健康教育の取組の充実

◆児童・生徒が自主的、実践的に取り組む特別活動の充実

- ・特別活動と各教科、道徳科等の学びを相互に関連付け、児童・生徒が主体的に自己や集団の課題解決を図り、成就感を感じ、自己有用感を高める教育活動の工夫・充実
- ・育成すべき資質・能力を明確にした学校行事の工夫・充実
- ・児童・生徒が主体的に計画し、課題解決や合意形成に向けて活動する学級活動、児童会・生徒会活動等の充実

②全ての児童・生徒の学びを保障する教育活動の充実

全ての児童・生徒が、一人一人の特性に応じて個性や能力を伸長し、安心して学校生活を送るために必要な支援や指導を受ける体制の整備及び教育活動の充実を目指す。

◆いじめ防止対策の徹底

- ・いじめ防止対策推進法、府中市いじめ防止条例、府中市いじめ防止基本方針等に基づく、適切ないじめ対応の徹底
- ・学校いじめ対策委員会を中核とした組織的な対応
- ・学校いじめ防止基本方針の見直し及び地域や保護者への周知
- ・いじめを生まない、許さない学校づくりの取組 →いじめに関する授業（年3回）、いじめに関する教員研修（年3回）、SOSの出し方に関する教育（年1回）の計画的な実施

◆長期欠席児童・生徒への支援の充実

- ・長期欠席児童・生徒の社会的自立に向け、学校とSC、SSW、けやき教室、子育て世代包括支援センター等の関係機関と連携した、一人一人に応じた支援の充実
- ・タブレット端末を活用した学習支援等の充実
- ・小・中学校間での確実な情報共有や予防のための共通した取組の推進
- ・サポートルーム（仮）の設置及び校内支援体制の構築

◆男女平等教育の推進

- ・児童・生徒の、男女平等、性の多様性に関する理解を深め、他者を尊重する態度を育む教育活動の充実
- ・道徳科、各教科等の中で、男女平等や個人の尊重に関する認識を高める教育活動の充実
- ・教職員の男女の本質的平等等についての認識を高める教員研修等の取組
- ・学校における固定的性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の確認・見直し →生活の決まり等の確認・見直し、男女混合名簿の完全実施、保健体育科の原則男女共習 等

◆特別支援教育の充実

- ・「第4次府中市特別支援教育推進計画」に基づく、児童・生徒の自立と社会参画を目指す教育活動の充実
- ・学校生活支援シート（個別の教育支援計画）、個別指導計画を活用した切れ目のない支援体制の充実
- ・特別支援教室拠点校と巡回校の連携強化
- ・交流及び共同学習、副籍交流の計画的な実施
- ・校内委員会による情報共有や組織的な対応の一層の充実

③義務教育9年間を見通した系統的な教育活動の充実

第3次府中市学校教育プランで示す目指す人間像の実現に向けて、小中連携の下、各中学校区で育成を目指す児童・生徒像を明確にし、各学校の学びの系統性に基づき、学年間・校種間の円滑な接続を目指す。

◆「未来につなぐ府中2020レガシー」の取組の充実

- ・児童・生徒が現代社会の課題を自らの問題として捉え、SDGsの実現に向けて行動できる力の育成
- ・市制施行70周年に向け、「ふるさと府中」に誇りをもてる児童・生徒の育成に向けた教育活動の実施 →各学校が設定した「未来につなぐ府中2020レガシー」のテーマと各教科等で学んだ府中市のよさや課題等を関連付け、府中の未来について考える教育活動を実施する

◆義務教育9年間を見通した宿泊体験学習の実施

- ・児童・生徒の発達段階を踏まえた、小・中学校の学習指導の特長を生かした系統的な指導の計画・実施
- ・中学校区で育成を目指す児童・生徒像を明確にし、各学校の教育目標、宿泊学習の目標、児童・生徒の発達の段階等を踏まえた、各教科等の学びと関連付けた宿泊学習の計画・実施
- ・令和5年度から小学校第5学年「わくわく自然教室」、中学校第1学年「ふれあい自然教室」の実施

◆英語体験活動の充実

- ・授業での英語学習を生かし、実際に英語を用いてコミュニケーションを図る機会の充実
- ・TGG体験活動を活用した英語教育の充実 →小学校5年生1学期 中学校1年生3学期
- ・英語で話す必然性のある機会を創出する「世界とつながる 英語 Enjoy Week」（仮）の取組 →小学校3年生以上の学年を対象に、中学校区での計画的な取組を検討する

◆安全教育・防災教育及び生活指導の充実

- ・中学校区等での引き渡し訓練や地域の様々な災害を想定した訓練を計画的に実施
- ・児童・生徒の発達を支え、児童・生徒の主体的に行動できる力を育成する生活指導の充実
- ・児童・生徒が、性暴力の当事者にならないための「いのちの安全教育」の推進
- ・情報の適切な利用やSNSトラブルの未然防止のための情報モラル教育の充実